



編集・京田辺市観光ボランティアガイド協会

初代神武天皇

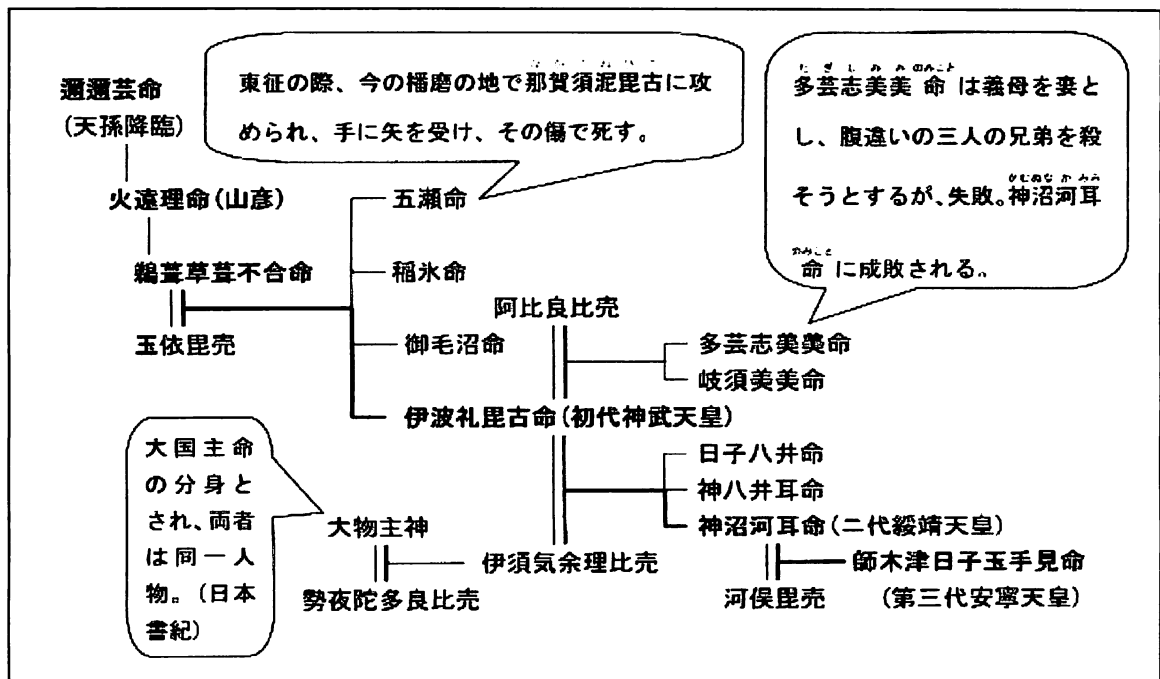
御名：神倭伊波礼毘古命(かむやまといわれびこのみこと・神日本磐余彦尊)

父親：天津日高日子波限建鵜草葺不合命(あまつひこひこなぎさたけうがやふきあえずのみこと)、
彦波瀲武鸕賀草葺不合尊・ひこなぎさたけうがやふきあえずのみひと、)

母親：玉依毘売命(たまよりびめのみこと・海神大綿津見の娘)

皇后：比売多多良伊須氣余理比売命(ひめたたらいすけよりひめのみこと・媛蹈鞬五十鈴媛命)

神武天皇は日本神話と実在の天皇が登場する歴史の間に立つ存在として述べられています。祖父は「海彦・山彦」伝説の山彦であり、曾祖父は「天孫降臨」を行った邇邇芸命とされています。又、邇邇芸命は天照大御神の孫にあたります。従って神武天皇は天照大御神から数えて5代孫であります。15歳で皇太子となり、45歳のとき、日本歴史学上有名な「神武東征」を始めます。



神武天皇系図

「神武東征」

神倭伊波礼毘古命(かむやまといわれびこのみこと)は兄・五瀬命(いつせのみこと)と相談して、「天下を治めるのに適した所、東方に都を求めたい」とし、大軍を率いて日向国(現在の宮崎県)を出発しました。これが神武東征の始まりです。

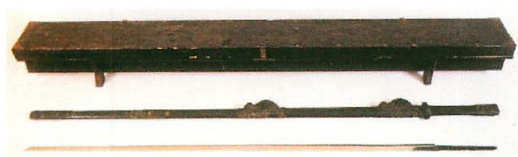
皇軍は豊国の宇佐に足一膳り(あしひとつあがり)の宮を建て、その後、笠紫の岡田の宮に1年、阿岐の国(広島県)7年、さらに吉備の高嶋(岡山県)に8年半滞在されました。さらに東へ進軍し、速吸門(はやすいのと・豊予海峡・明石海峡)で出会った槁根津日子(さおねつひこ・椎根津彦)を水先案内として、白肩(しらかた)の津(現在の大阪府・古代は「日下の入江」といわれ、船着き場となっていました)に着きました。

この時、その地の土族・登美能那賀須泥毘古(とみのながすねひこ)の攻撃を受け、兄の五瀬命が負傷し、紀の国の男の水門(おのみなと・現在の和歌山県紀ノ川の河口)で亡くなります。この痛手を負ったのは「神の子でありながら日に向って(東に向って)、戦をした」からだとし、紀の国の男の水門迄迂回して、熊野(現在の和歌山県新宮市のあたり)に入りました。



神武天皇東征の道のり

熊野に入ると大きな熊の毒気にあたり、全軍倒れてしまいます。この時、地元の高倉下(たかくらじのみこと)が天照大御神から授けられた霊剣「劔霊」(ふつのみたま)を奉ると、たちまち全軍は目を覚ましました。その後、「八咫鳥」(やたがらす)や「金色の鴉」(とび)等の助けを得て、大和に入りました。



霊剣「劔霊」



三つ足の八咫鳥

神武天皇は古事記によると 137 歳、日本書紀では 127 歳で崩御したとされています。また、神武天皇の存在を巡って、色々の説がありますが、肯定、否定どちらも立証する事ができないのが現状です。

京田辺市には神武天皇を祭神とする神社、寺院はありません。

第9代開化天皇

御名：若倭根日子大毗毗命、稚日本根子彦大日日尊

父親：孝元天皇

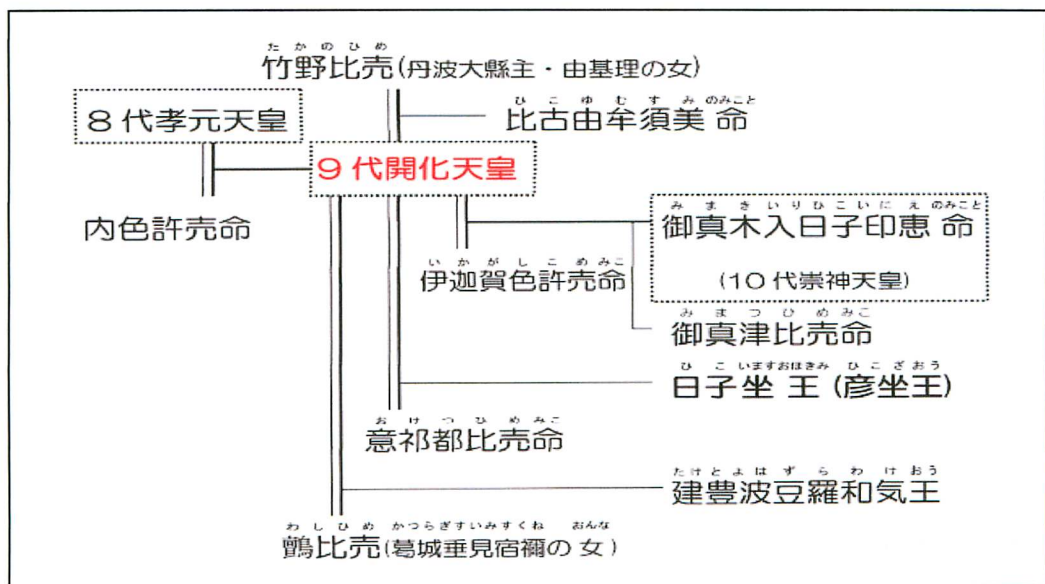
母親：内色許売命(うつしこめみこ・鬱色謎命)

皇后：伊迦賀色許売命(いかがしこめみこ・伊香色謎命)

初代神武天皇から開化天皇まで伝承上の天皇といわれ、特に2代綏靖天皇から開化天皇まで8人の天皇は、古事記、天皇記にほとんど業績が記されておらず、「欠史八代」といわれています。その中で開化天皇は、実在が確かな最初の天皇といわれる崇神天皇の父である事から伝承と現実を結ぶ天皇とされています。

孝元天皇の皇子として生まれ、孝元22年に16歳で皇太子となり、孝元57年に即位しました。

- ・ 皇后：伊迦賀色許売命(物部氏の祖・大綜麻杵の女、もと孝元天皇の妃、彦太忍信命の母)
 - 第二皇子：御間木入日子印絵命(みまきいりびこいにえのみこと、崇神天皇)
 - 皇女：御真津比売命(みまつひめのみこと、観松姫命)
- ・ 妃：丹波竹野媛(たにわのたかのひめ。丹波大県主由基理の女)
 - 第一皇子：彦湯産隅命(ひこゆむすみのみこと、比古由牟須美命)
- ・ 妃：意祁都比売命(おけつひめみこ、姥津媛、和珥氏の祖・姥津命の妹)
 - 第三皇子：彦坐王(ひこいますのおおきみ、景行天皇の曾祖父、神功皇后の高祖父)
- ・ 妃：鸕比売(わしひめ。葛城垂見宿禰の女)
 - 皇子：建豊波豆羅和氣王(たけとよはづらわけのおお、武豊葉列別命・武鹵頰命)



開化天皇の系図

在位 60 年で崩御。古事記には 63 歳、日本書紀には 115 歳（111 歳？）とあります。陵は、奈良県奈良市油阪町にある春日率川坂上陵（かすがのいざかわのさかのえのみささぎ）に治定されています。公式形式は前方後円。考古学名は念仏寺山古墳（前方後円墳、全長約 100m）



開化天皇陵

京田辺市には開化天皇を祀っている神社はありません。

日子坐王(ひこいますおほきみ・彦坐王)

『古事記』では、開化天皇と丸瀨臣(和珥氏を指す)祖の日子国意祁都命の妹の意祁都比売命(おけつひめのみこと)との間に生まれた第三皇子とされています。

『日本書紀』開化天皇紀によれば、第9代開化天皇と、和珥臣(和珥氏)遠祖の姥津命の妹の姥津媛命(ははつひめのみこと)との間に生まれた皇子とされています。

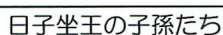
日子坐王は京田辺市の歴史を語る上で、関係の深い人物です。日子坐王の妃とその子女について記します。

- 妃：山代之姪名津比売(やましろのえなつひめ、苅幡戸辨)

【現在の京田辺市内の南部に江津(えっつ)という地名が残っており、この地方を治めていた豪族の娘といわれている。】

- 大俣王(おおまたのみこ)
 - 孫：曙立王 - 伊勢之品遲部君祖、伊勢之佐那造祖。
 - 孫：菟上王 - 比売陀君祖。
- 小俣王(おまたのみこ) - 当麻勾君祖。
- 志夫美宿禰王(しぶみのすくねのみこ) - 佐佐君祖。
- 妃：沙本之大閭見戸売(さほのおおくらみとめ) - 春日建国勝戸売の女。
 - 沙本毘古王(さほびこのみこ、狭穗彦王) - 日下部連祖、甲斐国造祖。
 - 袁邪本王(おさほのみこ) - 葛野之別祖、近淡海蚊野之別祖。
 - 沙本毘売命(さほびめのみこと、狭穗姫命/佐波遲比売) - 垂仁天皇の前皇后。
 - 室毘古王(むろびこのみこ) - 若狭之耳別祖。
- 妃：息長水依比売(おきながのみずよりひめ) - 天之御影神の女。
 - 丹波比古多多須美知能宇斯王(たんばひこたたすみちのうしのみこ、丹波道主命)
 - 孫：比婆須比売命(日葉酢媛命) - 垂仁天皇の後皇后、景行天皇の母。
 - 孫：真砥野比売命(真砥野媛) - 垂仁天皇妃。
 - 孫：弟比売命 - 垂仁天皇妃。
 - 孫：朝廷別王 - 三川之穗別之祖。
 - 水之穗真若王(みずのほまわかのみこ) - 近淡海之安直祖。
 - 神大根王(かむのおおねのみこ、八瓜入日子王) - 三野国之本巢国造祖、長幡部連祖。
 - 水穗五百依比売(みずほのいおよりひめ)
 - 御井津比売(みいつひめ)
- 妃：袁祁都比売命(をけつひめのみこと) - 彦坐王の母の意祁都比売命の妹。
 - 山代之大筒木真若王(やましろのおおつきまわかのみこ)
 - 孫：迦邇米雷王 - 子孫に息長帯比売命(神功皇后)、息長日子(吉備品遅君祖、針間阿宗君祖)、大多牟坂王(多遲摩国造祖)ら。

また、迦邇米雷王は京田辺市天王にある朱智神社の主祭神としてあがめられています。朱智神社の仔細は21頁参照】



31

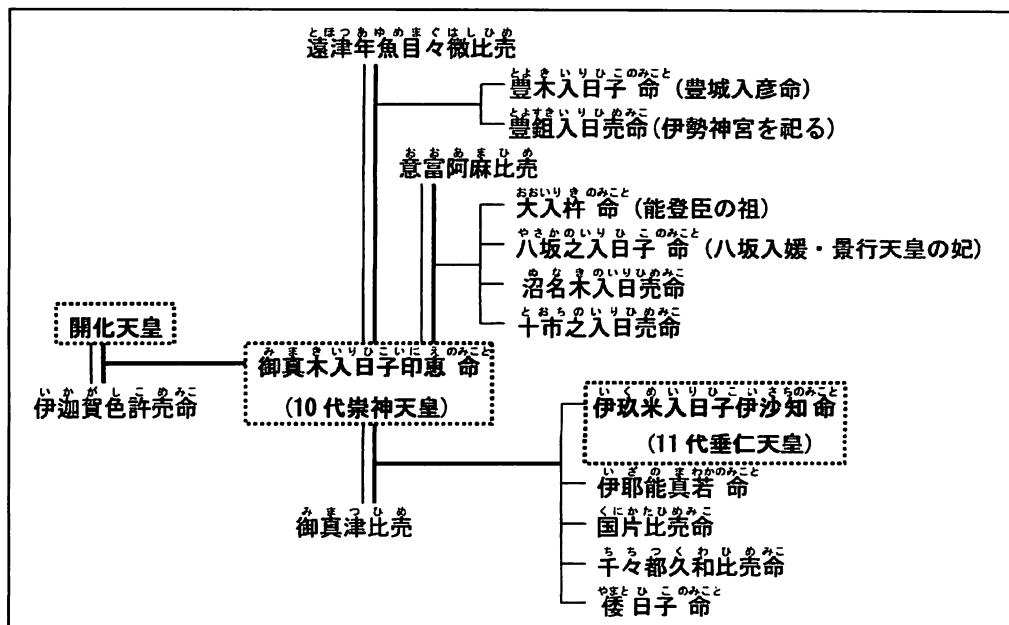
第10代 崇神天皇(?~258?又は318?)

御名：御真木入日子印恵命(みまきいりひこいにえのみこと・御間城入彦五十瓊殖命)

父親：開化天皇

母親：伊迦賀色許売命(いかがしこめのみこ・伊香色謎命)

皇后：御真津比売命(みまつひめみこ)



崇神天皇の系図

崇神天皇は開化天皇の子であり、学説では初代神武天皇から開化までを架空の人物と考えられていますが、崇神天皇は、実在性が高いとされており、3世紀後半から4世紀初頭の天皇だったようです。

古事記には、崇神天皇の時代、疫病がはやって多くの人が亡くなり、神に意見を求めると、夢の中に三輪山の大神主神(おおものぬしのかみ)が現れ、「疫病は私が起こしたもので、末裔の意富多々泥古(おおたたねこ)に祀ってもらえば、祟りが止み、世の中は安らかになる」といいました。さっそく、意富多々泥を祭主に命じ、大神主神を三輪山に祀らせました。さらに天上界や地上界の神を丁寧に祀ることで疫病も収まり、平穏が戻ったと書かれています。この事は、崇神天皇が神々の祭祀権を握り、政権内に取り込んだことを暗に物語っています。

大神主神をはじめ、他の神々を鎮めて世を平安に導いた崇神天皇はまだ朝廷に屈しない地域に王権を広めるため、四道将軍を選任し、各地方へ派兵しました。その将軍の内、崇神天皇の伯父の大毘古命(おおびこのみこと)が、北陸地方に向かうために幣羅坂(へらさか・奈良市北)に来ると、奇妙な歌を唄う少女がいま

した。歌は天皇の命が狙われていることを仄めかすものでした。

「御真木入彦はや 御真木入彦はや おのが命を 盗み殺せむと
後(しり)つ門よ い行きちかひ 前つ門よ い行きちかひ
うかかはく 知らにと 御真木入彦はや」

大毘古命は急いで天皇のもとに戻どり、謀反の計画がある事を報告しました。天皇の殺害を画策していたのは、山城にいる建波邇安王(たけはにやすみのみこ)でした。大毘古命は軍勢を率いて建波邇安王の軍と木津川を挟んで向かい合いあいました。そこでこの場所が、「挑み会う・いどみあう」から「伊豆美」と書き「いどみ」から「いずみ」となり、この川を「泉川」というようになったといわれています。



泉川・現在の木津川

勝敗は、建波邇安王が敗れ、逃げる敵軍を「久須姿・くすは」の渡りで攻め苦しめ、この結果、怖じ気づいた敵兵の袴が糞で汚れ、これを名付けて「糞袴・くそはかま」といい、これが「樟葉」の語源となったといえます。

また、敗残兵は切り殺され、鵜のごとく死体が流れたので、この川を「鵜川」ともいう。切り殺された遺体を葬った所を「波布理曾能(はふりその)」といい、「祝園」の語源となっています。このように木津川中流には、建波邇安王に纏わる伝説や神話が多く残っています。

又、湧出宮で斬られた建波邇安王の首は、対岸の祝園に飛んだ言われ、この伝説にちなみ、祝園神社では首に見立てた竹輪を村の代表が引き取って、その年の豊作を占う神事(居籠祭)が行われています。その神事の中で、胴体に見立てた大松明が奉じられます。



湧出宮

古事記では謀反人として描かれていますが、地元の人々には君主としての人気は高かったようです。

京田辺市は、崇神天皇を祀っている神社はありません

第11代垂仁天皇

御名：伊久米伊理毗古伊佐知命(いくめいりびこいさちのみこと・活目入彦五十狹茅尊)

父親：崇神天皇

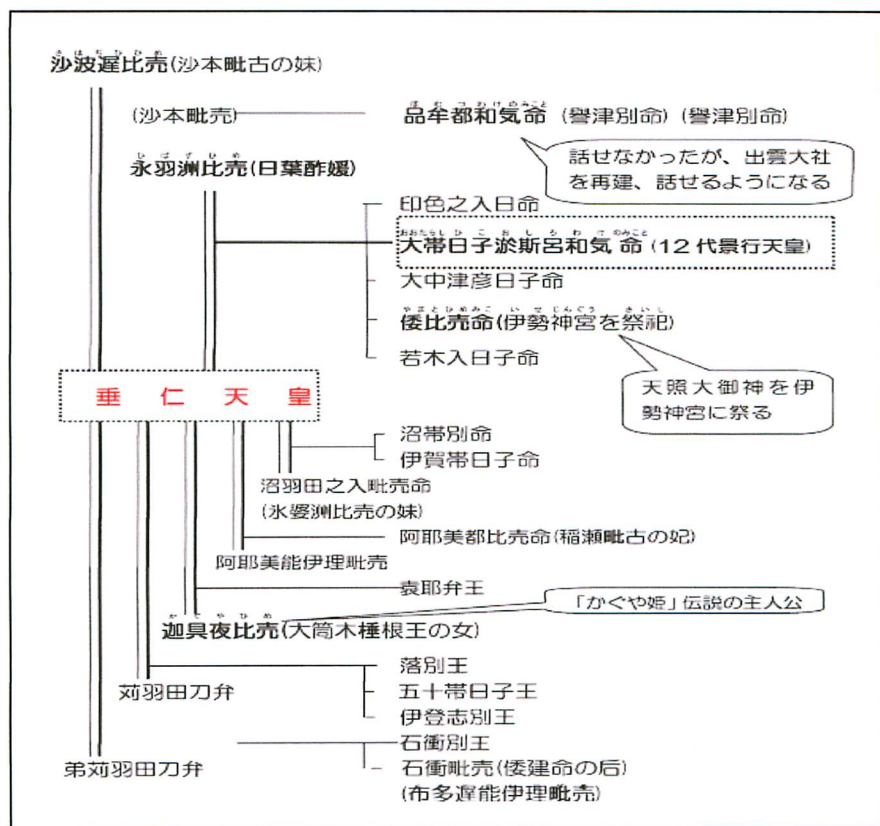
母親：御真津比売命(みまつひめのみこと・御間城姫命)

皇后：沙本毗売(さほびめ・狹穗姫、日子坐王の娘)、比婆須比売(ひばすひめ・氷羽洲比売)

伊久米伊理毗古伊佐知命は、父・崇神天皇と四道將軍であり阿倍氏の始祖である太田比古命の娘である御真津比売命を母として生まれました。

古事記には

- ・伊久米伊理毗古伊佐知命には兄の豊城入彦命(とよきいりびこのみこと)がいました。ある日、父の崇神天皇が二人に夢を見るよう命じました。兄の豊城入彦命は「御諸山に登り東に向いて、八度槍を突き刺し、八度刀を抜きました」と答えました。弟の伊久米伊理毗古伊佐知命は「御諸山に登り縄を四方に引き渡し、粟を食おうとする雀をおいはらいました」と答えました。これを聞いた崇神天皇は「兄は東を向いたので、東国を治めるのが良いだろう。弟は四方に心を配ったので、我が位を継ぐのが良いであろう」といわれた。かくして伊久米伊理毗古伊佐知命は、師木の玉垣宮で天下を統治しました。(垂仁天皇)



垂仁天皇の家族達

1 崇神天皇の妃と御子達と記紀の記事

垂仁天皇は、多くの比売命と結婚し、皇子13人、皇女3人の御子を設定しました。その主な妃を紹介します。

①開化天皇の孫（日子坐王の娘）の沙本毗売と結婚して生んだ御子は、品牟都和氣命（ほむつわけのみこと）といいます。

・品牟都和氣命について日本書紀には

品牟智和氣命は、30 歳になっても物をいわなかったという。ところがある日、空を飛ぶ白鳥を見て、「あれは何者か」といいました。崇神天皇はこの白鳥を捕らえ、品牟智和氣命に与えると物が言えるようになったとあります。古事記にも同様の話が記され、天皇の夢に大国主命が現れ、「我が宮殿を建てなさい。そうすれば御子は物が言えるようになる」という神託を受け、このことを喜び出雲大社の神殿を日子坐王の孫・曙立王、菟上王を出雲に派遣し、神殿地を建て直したといわれている。

・沙本毗売について古事記には

沙本毗売の兄沙本毗古王が反乱を起こそうとして沙本毗売に垂仁天皇を殺すように持ちかけたが毗売は殺せず、垂仁天皇と別れ、兄と共に亡くなった。沙本毗古の反乱は古代の一大反乱でありました。

②開化天皇の曾孫（日子坐王の子・比古多多須美知能宇斯王（ひこたたすみちのうしひのみこ）の娘）の比婆須比売と結婚して生まれた御子は、大帯日子淤斯呂和氣命（おおたらしひこおしろわけのみこと・景行天皇）と倭比売命（やまとひめのみこと）等5人です。

③開化天皇の曾孫（比古由牟須美命（ひこゆむすみのみこと）の皇子・大筒木垂根汪（おおつつき たりねのみこと）の娘）の迦具夜比売命（かぐやひめのみこと）と結婚して生まれた御子は、哀邪弁王（おぎべのみこ）一人など。

「竹取物語」の主人公・かぐや姫伝説は、迦具夜比売命の父親が筒木に住まいしていたと事から、旧綴喜郡である京田辺市が発祥の地として言い伝えられています。

④開化天皇の曾孫[子日子坐王の子・比古多々須美知能宇斯王（ひこたたすみちのうしおう）の娘]の4姉妹[比婆須比売（ひばすみめ）、弟比売命（おとひめ）、歌凝比売（うたごりひめ）、円野比売（まとのひめ）]を都に招いたが、比婆須比売と弟比売命の二人を妃としました。

比婆須比売は大帯日子淤斯呂和氣命（おおたらしひこおしろわけのみこと・12 代景行天皇）他 3名の皇子と 1 名の皇女を産みました。

弟比売命（別名・沼羽田之入毗売命（ぬまたのいりびめのみこと））は 2 名の皇子を産みました。

妹媛 2 人（歌凝比売、円野比売）は、容貌が良くないとして追い返えされました。このことを恥じて円野比売は、山城国の相楽（木津川市）迄来た時に首を吊ろうとしました。そこでこの地域を懸木（さがりき）をとって、相楽（さがら）呼ばれました。さらに円野比売命は、その後乙訓に着いた時に、険しい淵に飛び込んで死にました。そこでその地を名付けて、墮国（おちくに）といい、現在の弟国といわれています。

2 その他の記事

① 殉死の廃止と埴輪造り

日本書紀によると、崇神天皇の死後、倭彦王が殉死を行ったので、垂仁天皇はその時の死者を大そう気の毒がりました。そのために野見宿禰(のみのすくね)の献言によって、比婆須毗売命の葬礼のときから埴輪が用いられるようになりました。野見宿禰は当麻蹴速(たいまけはや)との日本で最初の角力としての説話に残りますが、朝廷の葬礼を扱う土師臣の始祖です。

② 常世の国へ「ときじく木」を求めて

多遲摩毛理(たじまもり)

天皇は多遲摩毛理を常世国に遣わし「非時(ときじく)の香の木実」を求めさせたという、この非時の実と言うのは、四季を通じて香る木の実と言うことで、橘であるとされている、しかし、多遲摩毛理がその実を持ち帰った時には、垂仁は既に亡くなってしまっていた、多遲摩毛理は、その半分を太后に献上し、残りを垂仁の陵に献じ、嘆きの余り死んでしまいました。日本菓子の始祖といわれ、御陵は菅原の御立野（奈良県桜井市）にあります。

第14代仲哀天皇

御名：帶中津日子命(たらしなかつひこのみこと・足仲彦尊)

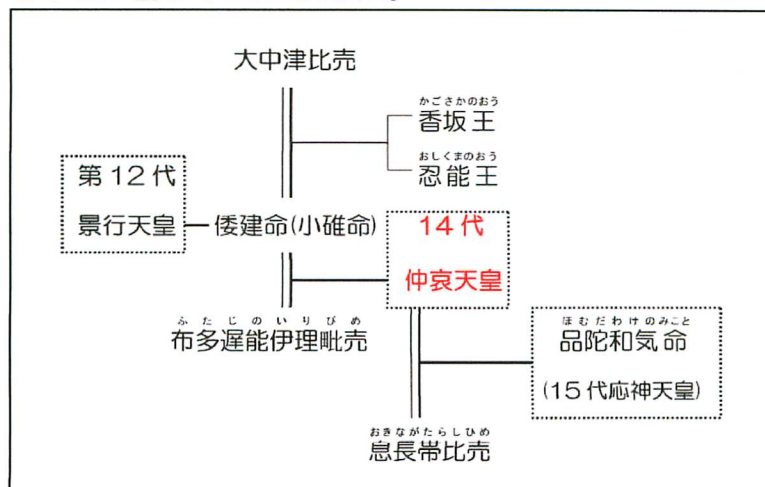
父親：倭建命(やまとたけるのみこと・日本武尊)

母親：布多遲能伊理毘売命(ふたじのいりびめのみこと・両道入姫命・垂仁天皇皇女)

皇后：息長帶比売命(きながたらしひめのみこと・息長宿禰王の娘・神功皇后)

第13代成務天皇が崩御して直系が絶え、異母兄弟の倭建命(景行天皇の子)の子が皇位を継承しました。第14代仲哀天皇です。

仲哀天皇の御世、九州の熊襲が反乱を起こしました。天皇は、この反乱の鎮圧の為、皇后の息長帶比売命(神功皇后)と共に、香椎宮(かしひのみや・現福岡市)に赴きその地に留まっていました。



仲哀天皇系図

この時、古事記には次のように記されています。

ある時、天皇が琴を弾き、大臣の建内宿禰(たけうちのすくね)が庭に控え、神のお告げを求めました。すると皇后が神懸りなされ、神は、「西の方、海の向こうに国がある。金銀財宝に恵まれた国であるから服属させてやろう。」と託宣しました。しかし、天皇は、この神の意を疑ったので、激怒した神は、「一直線に黄泉の国に向かうがいい」と言い、まもなく、天皇はその場で息絶えてしまいました。

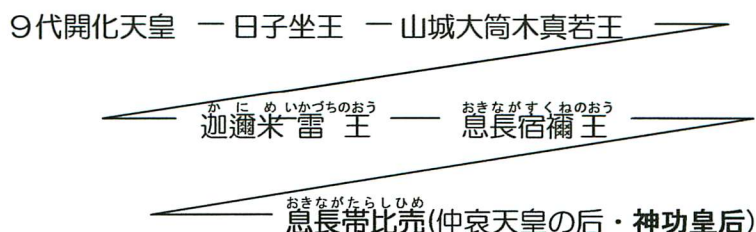
仲哀天皇の崩御は、神に背いた神罰であった為、国家的な大祓の儀式がおこなわれました。そのうえで建内宿禰が神に神託を求めたところ神は、「皇后の胎内にいる子が世継ぎである。全ては天照大御神の意思であり、我々は住吉三神(底筒男神、中筒男神、上筒男神)であると告げ、また、新羅征伐渡海の時の神の祀り方などの神託を告げた。」と書かれています。

仲哀天皇の死は、熊襲征伐の際、矢にあたり、その翌年崩御したともいわれています。いずれにしても神託に従わなかった為と伝えられています。

神功皇后は、神からの神託を守り軍勢を従え、新羅を攻めました。神通力を得た神功皇后の軍勢に圧倒されて、新羅王は降伏し、加えて、百済をも貢納国となりました。その後、皇后は新羅王宮の門前に杖を突き立て住吉大神の荒御霊を祀る儀式を行った後、帰国の途に就きました。この時、皇后は、身重の身体だったので帰りの船のなかで、生まれそうになりましたが、石を裳の腰につけて出産を延ばしました。そして皇后は、筑紫の宇美（現福岡県）で皇子を産みました。後の応神天皇です。

神功皇后

＊神功皇后は、息長帯比売命と言います。日子坐王から数えて4代孫にあたります。日子坐王の孫、迦邇米雷王は、京田辺市天王の朱智神社の祭神です。その子息長宿禰王の娘が息長帯比売命です。京田辺にゆかりの深い人物です。



神功皇后系図

京田辺には、神功皇后ゆかりの伝承地があります。

・不違(たがわず)の池

皇后が新羅遠征の時、この池で御髪を洗い、みずらに結い、男子の装いをした。又、皇后が腰かけられたとされる“御床の石”があり、帰りも必ず通ると約束し、その約束に違う事なく戻った事から名付けられたと伝わっています。



不違の池

・鉾立の松、鉾立の杉

戦いに出発する際、戦隊の列は、松（北鉾立）～杉（南鉾立）まで続いたと伝わっています。

・三個の酒壺

社伝によると、皇后の新羅遠征に出兵する時、三個の酒壺を酒屋神社背後の山中に安置して諸神を祀り、帰国後その霊験を喜んで社殿を創建したと伝わっています。

酒屋神社説明は 5 頁参照



鉾立ての松

「日本書紀」では「武内宿禰」、「古事記」では「建内宿禰」、

第8代孝元天皇

ひこふつおしのまことのみこと
比古布都押之 信 命

いかがしこめみこ
伊迦賀色許売命

日本書紀の系圖

やぬしおしおたけおごころのみこと
(屋主忍男武雄 心 命)

たけうちのみこと
建内宿禰

影媛(菟道彦の娘)

古事記の系圖

波多八代宿禰
こせのおから
許勢小柄宿禰
そがのいしかわ
蘇我石川宿禰
へいぐりのつく
平郡都久宿禰
木角宿禰
久米能摩伊刀比売
忍能伊呂比売
かつらぎのそつひこ
葛城襲津彦

建内宿禰の系図

記紀に記されている建内宿禰の業績を列挙します。

第 12 代景行天皇紀

- ・武内宿禰は北陸及び東方に派遣され、地形と百姓の様子を視察した。帰国すると、蝦夷を討つよう景行天皇に進言した。
- ・景行天皇 51 年 1 月 7 日、「棟梁之臣・天皇の補佐役」に任じる。

第 13 代成務天皇紀

- ・成務天皇は武内宿禰を「大臣」となし、同日の生まれであることから武内宿禰を寵した。

第 14 代仲哀天皇紀

- ・仲哀天皇 9 年 2 月 6 日、
仲哀天皇が遠征途上で死去すると、神功皇后と武内宿禰は、天皇の喪を隠した。そして四大夫に宮中を守るよう命じたのち、武内宿禰自身は密かに天皇の遺骸を海路で穴門へ運び、豊浦宮において殯を行なったのち、皇后に復命した。
- ・神功皇后摂政前紀 仲哀天皇 9 年 3 月 1 日、
神功皇后は齋宮に入り、自ら神主となって仲哀天皇に祟った神の名を知ろうとしたが、その際に武内宿禰は琴を弾くことを命じられた。
- ・神功皇后摂政元年 3 月 5 日、

仲哀天皇の崩御を聞いて反乱を起こした香坂王・忍熊王兄弟に対し、武内宿禰は皇子（のちの応神天皇）を抱いて南海に出て紀伊水門に至る。そして武振熊（和珥臣遠祖）とともに数万の軍を率い、山背、菟道（宇治）を経て、逢坂（京都府・滋賀県境の逢坂山）にて忍熊王軍を破った。無事大和に戻った後、皇子を伴って敦賀の気比神社に参った。

- ・新羅と百済とで貢物の問題が起こり、皇后が誰を百済に遣わしたら良いか天神に問うたところ、天神は武内宿禰をして議を行わしめ、千熊長彦を使者とするよう答えた。

第 15 代 応神天皇紀

- ・ 応神天皇 9 年 4 月条、

天皇の命で武内宿禰が筑紫へ百姓の監察に遣わされた際、弟の甘美内宿禰が兄を廃そうとして天皇に讒言した。天皇は武内宿禰を殺すため使いを出したが、真根子（壹伎直祖）が身代わりとなって殺された。武内宿禰は朝廷に至って天皇に弁明すると、武内宿禰と甘美内宿禰は探湯で戦うこととなったが、武内宿禰が勝った。

- ・ 渡来人を率いて百済池を作った。

第 16 代 仁徳天皇紀

- ・ 仁徳天皇元年 1 月 3 日条

応神天皇の子の大鷦鷯尊（仁徳天皇）と武内宿禰の子の平群木菟宿禰とは同日に生まれた。その際、応神の子の産殿には木菟（つく：ミミズク）が、武内宿禰の子の産屋には鷦鷯（さざき：ミソサザイ）がそれぞれ飛び込んだので、その鳥の名を交換して各々の子に名付けた。



武内宿禰像の入った壹円札

武内宿禰は薪神社に祭られています。薪神社の仔細は 17 頁を参照。

第 15 代 応神天皇

御名：品陀和氣命（ほむだわけのみこと・菅田別尊）

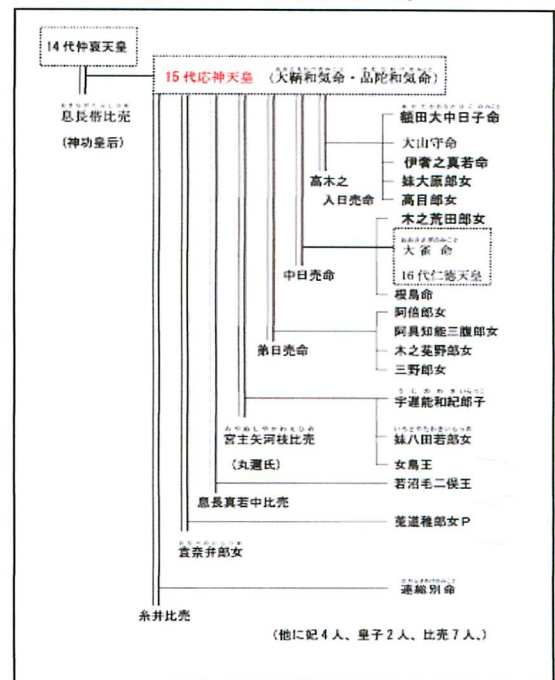
父親：仲哀天皇

母親：息長帯比売命（おきながたらしひめのみこと・氣長足姫尊）

皇后：仲姫命（なかつひめのみこと・息長真若中比売）

神功皇后が新羅遠征からの帰路、筑紫国で品陀和氣命は、お生まれになりました。

＊品陀和氣命の誕生については、「仲哀天皇の項」で述べたように「すべてこの国は、皇后のお腹の御子が治めるべき国である。」と天照大神及び住吉三神から武内宿禰に信託が下されていました。大和に入る途中、この御子の異母兄・香坂王（かごさかのおう）、忍熊王（おしくまのおう）の反乱から御子を守るため、喪船に仕立てて、無事大和に入りますが、仮にも死人となった穢れを祓うため、武内宿禰に伴われて敦賀の氣比神社へ行き、そこで神の名と御子の名との交換がなされたとあります。



応神天皇系図

品陀和氣命は幼い時から聡明で、物事を遠くまで見通しました。3歳で皇太子となり、神功皇后が崩御すると即位しました。第15代応神天皇です。

＊神功から受け継いだ応神天皇の御代は、国見の歌（葛野の歌）に、「幾千も富み栄えた家々が見える」と歌われている通りの行き届いた善政が行われていました。

この御代、大陸からの文化、新技術を積極的に取り入れ、政治、外交だけでなく、文化、学問、においても国家として一層発展しました。

新羅から来た技術者たちを武内宿禰が、率いて百済の池を作らせました。百済の照古王から、馬2頭と阿知吉師、和邇吉師と共に、論語10巻・千字文、鍛冶の工人卓素・機織の西素（西素は呉服（くれはとり）ともいわれ現在の呉服の語源とされる。）、や酒造りの技術がもたされました。

古事記には、京田辺市に酒造りに関わる渡来人・須々許理（すすこり）の話が伝えられています。

＊古事記中の巻・応神天皇の項に「また酒を醸む（かむ）ことを知れる人、名は仁番（にほ）、亦の名は須々許理（すすこり）等参渡り来ぬ。」とあり、この須々許理が大御酒を献上すると天皇はこれを飲み、御歌を詠まれたとあります。

須々許理が 醸みし御酒に われ酔ひにけり

ことなぐし ゑぐしに われ酔ひにけり

京田辺市の佐牙神社にはこの須々許理に纏わる話が「曾々保利伝説」として残っています。

佐牙神社

祭神 佐牙彌豆男神（右）佐牙彌豆女神（左）

社伝によると573年に建てられたとされる。酒造りの神として信奉されていた。もとは旧山本村（遠藤川北側）にあったが、延暦13(794)年現在の地に創建。

社殿は、永世6(1509)年に兵火に遭い、山本主馬介義古一族らにより再建されたが、その後、天正4(1576)年にも火災に遭い焼失、その9年後(天正13年)に一部新築して遷宮式をあげたと伝えられる。

本殿は、重文に指定。左右二殿からなり、ともに一間社春日造り桧皮葺、ただし、向拝は天明6年(1786)の後補である。

身舎三方にとりつけた六個の臺股は、その輪郭は鎌倉風のものであり、内部の彫刻も左右対称的なデザインからなり、特に向かって右殿正面の「柏の葉」「ふくろう」のそれは鎌倉風の秀逸である。

今回、2002年から2年がかりで、本殿、鳥居、周囲の塀が70年ぶりに修復された。



佐牙の「さが」は朝鮮語で元々「発酵させる」という語源から来ている。古代の酒は巫女にこめをかまして唾液と混ぜ、それを壺にためて発酵させて作ったと言われている。

京田辺市の応神天皇が祀られている神社には酒屋神社（5頁参照）、薪神社（17頁参照）があります。

次に応神天皇の妃とその子供達についてお話しします。

景行天皇の皇子・品陀真若王の三人の娘（高木之入日売命、中日売命、弟日売命）が応神天皇の妃となっています。

①、高木之入日売命（たかぎのいりひめのみこと）

京田辺市三山木は、「山崎」「山本」「南山」の3つの山と、「高木」の「き」の「4つの村が合併し「三山木」となりました。

高木之入日売命の高木は、京田辺市の元の地名「高木」と同じで、何らかの関連があるのかもしれませんが。

a、高木之入日売命の皇子・額田大中日子命（ぬかたのおおなかつひこのみこと）

額田大中日子命は三山木にある山崎神社の祭神の1柱として祀られています。この御子は全国の氷室の神として信仰されています。

b、高木之入日売命の皇子・大山守命（おおやまもりのみこと）

大山守命は応神天皇が崩御した後、天下を治めんとして乱を起こします。（伽羅羅伝説）

②、中日売命（なかつひめのみこと）

品陀真若王の二番目の娘。大雀命（おおささきのみこと・第16代仁徳天皇）を産みます。

③、宮主矢河枝比売（みやぬしやかわえひめ）

「蟹の歌」で有名な歌物語で登場する宮主矢河枝比売は、「楯のようにすらりとした後ろ姿、椎や菱の実のような歯」をした美しい娘で、木幡の野で応神天皇に見初められ、宇遲能和紀郎子（うじ

のわきいらっこ) が生まれました。応神天皇は宇遲能和紀郎子を可愛がり、遺言で次代の皇位が譲られました。

山崎神社

* 建立時期：不明

元の鎮座地は現在の場所より西南約 55m のところにあったものを宝亀年間(770~780)に現在地へ移されました。

* 祭神：額田大中日子命(ぬかたのおおなかつひこのみこと)・・・応神天皇の皇子

：大友皇子(おおとものおうじ)・・・天智天皇の子

671 年、壬申の乱で負け山前(やまさき)で死んだといわれている。

：一説によると継体天皇第八王子・菟皇子を祭神とし、明治初期まで八王子社とも皇子神社とも言われていました。

* 古墳の上に建立されていることから古墳を神体化したことが伺える。縄文時代中期の石棒と異形石器をご神体としています。



山崎神社上り口



山崎神社本殿

* 四間二戸の切妻造り

* 近くに「越前・こしまえ」という地名がある。⇒継体天皇が生まれた越前に関係したものか？

河原（伽和羅）伝説

義弟に皇位が譲られる事を知った大山守命は、宇遲能和紀郎子の暗殺を企てますが、逆に宇遲能和紀郎子の策略にかかり、宇治川に沈んで亡くなってしまいます。流れ着いた川べりで引き上げる時、着ていた鎧が「かわら」と音を立てた事から、この付近を「訶和羅崎」と名付けたという伝説（古事記中々巻・大山守の反逆）があり、京田辺市川原に伝承されています。（古事記は宇治川の「河原」と記されているので、京田辺の木津川付近ではないという意見が多い。また、この説は崇神天皇の御代の武埴安彦（たけはにやすひこ）の反乱の話とする見方もあります。）



伽和羅古戦場跡

大山守命の反乱の後、宇遲能和紀郎子は大雀命こそが皇位につくべきとお互いに譲り合っている内に、宇遲能和紀郎子が亡くなり、そして大雀命が天皇となります。

宇遲能和紀郎子の死亡説に関して、実は大雀命の放った刺客が闇夜に紛れて宇遲能和紀郎子を殺害したとの説もあります。現在も宇治の縣神社の大祭「暗闇の奇祭」として伝えられています。

また、この暗殺説の裏付けの話として古事記に次のような話が記載されています。
ある時、父応神天皇が「親として上の子と幼い下の子とどちらが可愛いと思うものだろうか」と大雀命に問うたところ、大雀命は父応神天皇が、下の子・宇遲能和紀郎子を可愛がり皇位につかせたいという意を素早く汲んで「下の子」と答えたといい、大雀命の深謀が伺えます。

後に宇遲能和紀郎子の妹・八田若郎女を磐之媛の勘気に触れながらも側におこうとしたのも、亡き者にした宇遲能和紀郎子へのせめてもの償いの思いがあったのかもしれません。

④ 息長真若中比売(おきながまわかなかつひめ)+

倭健命の曾孫。若沼毛二俣王(わかぬけのふたまたのおう)を産みます。この仁俣王の4代孫が継体天皇となります。

第16代 仁徳天皇

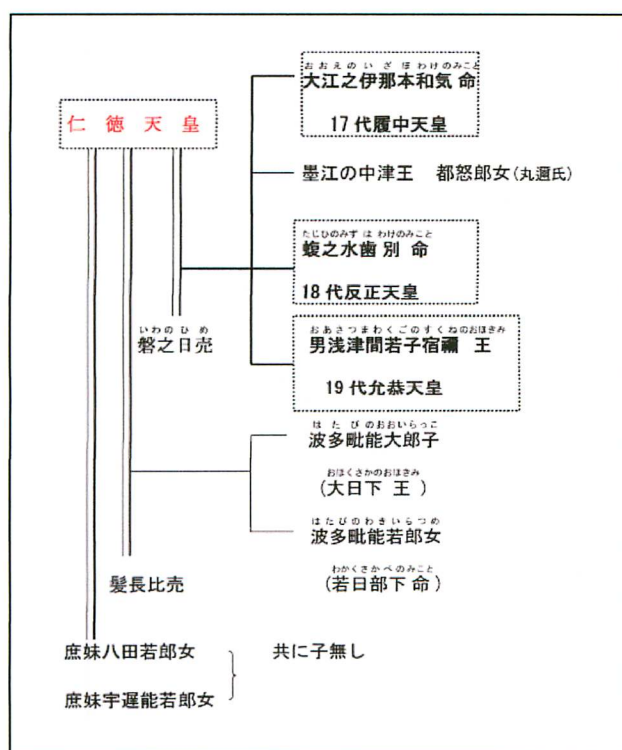
御名：大雀命（おおささぎのみこと・大鷦鷯尊）

父親：應神天皇

母親：仲姫命（なかひめのみこと）

皇后：磐之媛命（いわのひめのみこと）

第十六代仁徳天皇は応神天皇と仲津姫（五百城入彦皇子（いおきいりびこのみこ）の孫）の皇子として生まれた。応神天皇が崩御した後、皇太子の菟道稚郎子（うじのわきいらっこ）は皇位を兄の大鷦鷯尊（おおさざきのみこと）に譲ろうとしたが、このすきにもう一人の兄・大山守命が皇太子を殺し、皇位を奪おうとしたので、菟道稚郎子と大鷦鷯尊は共同して大山守命を殺しました。（加波羅伝説）



仁德天皇系図

仁德天皇・聖帝の世

於是、天皇登高山 見四方之國 詔之「於國中烟不發。國皆貧窮。故、自今至三年、悉除人民之課役。」

是以、大殿破壞、悉雖雨漏、都勿脩理、以核 受其漏雨遷避于不漏處。後見國中、以國滿烟。故、為人民富、今科課役。是以百姓之榮、不苦役使。故 稱其御代、謂聖帝世也。

古事記下巻 仁徳天皇の善政

その後、菟道稚郎子が自殺し、やむなく大鷦鷯尊が皇位を継ぎました。(仁徳天皇)
五世紀前半に活躍したと考えられ、子供の頃から聡明で叡智にあふれていたと言われています。古事記にも人民の生活を思い、質素儉約したと伝えられている。古事記には八十三歳で崩御したと記されています。

磐之媛（16代仁徳天皇皇后）

仁徳天皇の皇后が嫉妬話で有名な磐之媛です。磐之媛はあの有名な建内宿禰の孫娘です。建内宿禰は第12代景行天皇から仁徳天皇代まで300年生きたという伝説の人物です。8人の子は、蘇我氏や葛城氏等の有力豪族の祖氏になったとされています。その内の1人、葛城襲津彦が磐之媛の父です。

古事記には、磐之媛が新嘗祭に使う御綱柏を取りに紀の国へ行っている間に、仁徳天皇は八田の若郎女を妻に迎えました。これを聞いた磐之媛は御綱柏を捨ててしまい、高津宮に戻らず、淀川から木津川を上り、山城に入ったとあります。この地方には筒木の韓人・奴理能美（百済からの帰化人）が住み、養蚕業を営んでいました。そこで仁徳天皇が磐之媛に逢いに行ってもらうため、丸邇の臣口子とその妹・口日売、奴理能美の三人が一計して「奴理能美には三度色が変わる怪しき虫がおります。是非見に行ってください」と蚕を紹介しします。それを聞いた天皇は山城に来られ、磐之媛とお会いになって、仲直りしたと伝えられています。この山城の地が普賢寺川流域の多々羅理辺りとされており、現在「日本最初外国蚕飼育旧蹟」の石碑が建っております。

この磐之媛の愚痴ばなしは、実は当時の磐之媛（即ち葛城氏）の地位の保全手段として取られた行動ではないかと云われております。

於是、口子臣、亦其妹口比賣、及奴理能美、三人議而令奏天皇云、「太后幸行所以者、奴理能美之所養虫、一度為御虫、一度為嬖、一度為黃鳥、有變三色之奇虫、看行此虫、而人坐耳、更無異心」如此奏時、天皇謂之、然者君思、奇異故、欲見行。自太宮上幸行、入座奴理能美之家時……………

日本最初外国蚕飼育旧跡の石碑

この碑は、昭和3年（1928年）京都に住む篤志家により建立されたものです。多々羅には百済からの帰化人たちが豪族の奴理能美（ぬりのみ）を中心に住み、養蚕と絹生産が盛んであったといわれています。



日本最初外国蚕飼育旧跡の石碑

第 25 代武烈天皇

御名：小長谷若雀命(おはせのわかさぎのみこと・小泊瀬稚鷦鷯尊)

父親：仁賢天皇

母親：春日大郎女皇女

皇后：春日郎女(父不詳)

第 24 代仁賢天皇が崩御すると、時の大臣・平群真鳥(へぐりのまとり)が政権を私物化し、権力を誇示する振る舞いが見られました。例えば仁賢天皇が生前の時、真鳥は、皇太子・小泊瀬稚鷦鷯尊のためと偽って宮殿を建てたが、自分が住んでしまいました。また真鳥の子・鮪(しめ)は、小泊瀬稚鷦鷯尊が、娶とうと思っていた影媛と通じてしまいました。怒った小泊瀬稚鷦鷯尊は、大伴金村に命じて鮪を殺害し、平群真鳥の館を焼き払い殺してしまいました。

皇太子は年若くして即位(武烈天皇)しましたが、その後の天皇は「妊婦の腹を裂いて胎児を見た」とか、「生爪を剥いだ人に山芋を掘らせた」、「人を池に落とし、這い上がろうとするのを射殺した」、など数々の暴虐な振る舞いが伝えられています。

しかし日本書紀の記事には、この暴虐の記事は、武烈天皇の代で応神、仁徳の血統が途絶えた事を理由づけるための造作とも言われています。その 1 つの説に武烈天皇を、天皇に相應しくない人物に仕上げる事により、継体天皇の即位を正当化したという説もあります。

武烈天皇は在位 8 年、列城宮で崩御しましたが、一説には武烈天皇擁立の功労者であった大伴金村によって暗殺されたともいわれています。

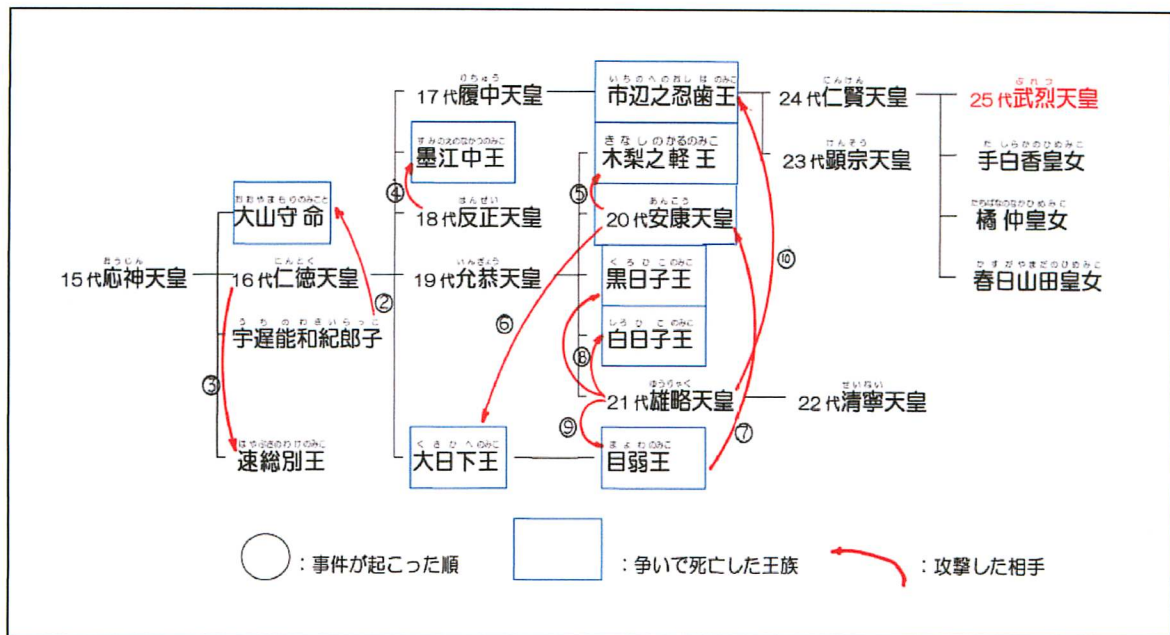


武烈天皇社



桜井市出雲の十二柱神社の境内
列城宮跡碑





天皇家の身内争いで殺されて人々

仁徳天皇の血脈が途絶えた理由は武烈天皇に御子がいなかったという事以外にもっと大きな要因がありました。それは 16 代仁徳天皇から 21 代雄略天皇までの間に、身内の争いにより、多くの親族が死亡した事が挙げられます。特に雄略天皇の御代、皇室を取り巻く多くの親族が、雄略天皇により殺害された事が、最大の原因になったと思われます。

桜井市出雲の十二神神社に、武烈天皇の列城宮跡とする石碑が立っています。

京田辺市には武烈天皇ゆかりの神社はありません。

皇妃：目子媛(尾張連草香の娘)、他7人

49

そして第二十五代武烈天皇が崩御されます。日本書紀にはその後の経過が次のように書かれています。

『天皇年五十七歳、八年冬十二月己亥、小泊瀬天皇崩。元無男女、可絶繼嗣。壬子、大伴金村大連議曰、方今絶無繼嗣。天下何所繫心。自古迄今、禍由斯起。今足仲彦天皇五世孫倭彦王、在丹波國桑田郡。請、試設兵仗、夾、衛乘輿、就而迎、立為人主。大臣大連等、一皆隋焉、奉迎如計。於是、倭彦王、遙望迎兵、懼然失色。仍遁山壑、不知所詣。』

「八年の冬十二月(しはす)の己亥(つちのといのひ)に、小泊瀬天皇(おはつせのすめらみこと・武烈天皇)崩(かむあが)りましぬ。元より男 女 無くして、繼嗣絶(みつぎた)ゆべし。壬子(みすのえねのひ)に、大伴金村大連(おおむらじ)議(はか)りて曰く、「方(まさ)に今絶えて繼嗣無し。天下、何(いすれ)の所にか心を繫(か)けむ。古より今に迄るまでに、禍(わざわい)斯に由りて起る。今足仲彦天皇(いまたらしなひこのすめらみこと・仲哀天皇)の五世の孫 倭彦王、丹波国桑田郡に在す。請ふ、試に兵仗(つわもの)を設けて、乗輿を夾み衛りて、就きて迎え奉りて、立てて、人主(おみ)としまつらむ」といふ。・・・」そこで仲哀天皇の五世の孫、倭彦王を丹波の国へ迎えに行くことになりましたが、倭彦王は物々しい兵をみて山へ逃げてしまいました。

『元年春正月辛酉甲子、大伴金村大連、更籌曰、男大迹王、性慈仁孝順。可承天緒。翼慰勸進、紹隆帝業。物部麤鹿火大連、僉曰、妙簡枝孫、賢者唯男大迹王。丙寅、遣節以備法駕、奉迎三國。夾衛兵仗、肅整容儀、警蹕前驅、奄然而至。於是、男大迹天皇、晏然自若、踞坐胡床。齊列陪臣、既如帝坐。』

「そこで大伴金村大連は再度会議を開き、物部麤鹿火大連(もののへのあらかひのおおむらじ)、許勢男大臣(こせのおひとおおむらじ)らの賛同を得て、三国に住まいする男大迹王(おおどののおおきみ)を推薦し、越前の三国に迎えに行きました。そこに見た男大迹王の泰然自若として、陪臣を従えている姿に、すでに帝の座すが如しと、使者たちはその場でその王に忠誠を尽くすほどであった」と記されています。

当初、男大迹王は「自分には天子の才能が無く力不足である」として、皇位につく事を辞退していたが、金村や群臣の懇願により、ようやく即位しました。(継体天皇)

しかしすぐに奈良には入らず、507年に最初の宮・樟葉の宮、511年に筒城宮、518年に乙訓宮に変遷し、526年、奈良の磐余玉穗宮に入られました。

この間、継体天皇は農業や養蚕を奨励し、自ら耕作し、皇妃も自ら養蚕しました。そのかいて天皇の時代は土地が肥え、五穀豊穡だったといえます。

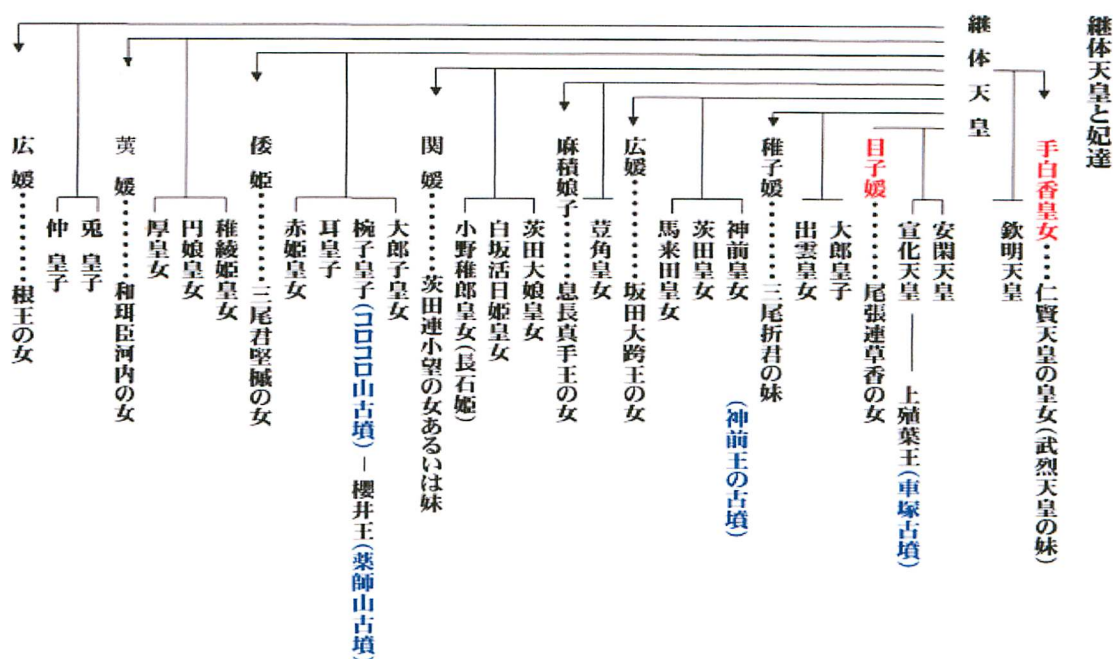
外交では任那の救援のため近江の毛野臣の軍6万を派遣し、内では筑紫国磐井(磐井の乱)を平定しました。

継体25年、古事記によると43歳、日本書紀では82歳で崩御しました。

継体天皇の妃達

継体天皇は天皇の位を受けて大和の都に入るまで 20 数年を要したとされています。そこには大きな後ろ盾を持たなかった継体天皇が、大和朝廷内部にいる反継体派に対抗するためにさまざまな努力をした跡がうかがえます。その 1 つに皇位につく以前から多くの有力豪族の娘を妃にしており、この婚姻により権力の拡大を図った様子が覗えます。

継体天皇には皇后と 8 人の妃がいたと日本書紀に記されています。天皇は当時の交通の要であった琵琶湖や淀川木津川水系を治めるため、近江に 5 人、他に尾張、河内、大和の豪族の娘たちを妃とし、万全な力を付けていったと考えられます。



継体天皇の妃達

京田辺市における継体天皇の足跡

1) 継体天皇と息長氏・観音寺との関わりについて

継体天皇がこの京田辺市に「筒城宮」を造営した背後には、謎の豪族ともいわれる息長氏が深く関与していたと考えられます。

息長氏は「息の長い氏」と書いてオキナガ、イキナガ、またはキナガ、シナガと呼ばれています。先祖は字のごとく息を長く保つ民族から海の民、または「風を吹く」から製鉄の民とも言われています。

日本書紀に書かれている大王系図によると、「息長」を名乗った人物が登場するのは、9代開化天皇の皇子・彦坐王の妃で、息長水依比賣(おきながみずよりひめ)です。したがって3世紀後半～4世紀にはすでに豪族として勢力を持っていたと考えられます。その息子は山城の綴喜の地名に関係した山代大筒城真稚王(やましろうおおつつきまわかのおう)であり、その孫の息長宿禰王(おきながすくねのおう)の皇女が神功皇后です。この神功皇后は仲哀天皇の妃となり、応神天皇を産みます。応神天皇も息長氏の真若中比売(まわかのなかひめ)を妃と

し、皇子に稚淳毛二俣王(わかのかげにまたのおおきみ)が生まれます。この稚淳毛二俣王あるいはその子意富本杼王(おおおどのおおきみ)が「息長氏」の祖師とされています。従って継体天皇は「息長氏」の氏族と強い関係にある事が判ります。

そしてこの息長氏が山城の筒木・すなわち京田辺の地を基盤とし、支配していました。

従って、継体天皇にとってはこの筒木の土地(京田辺市を含む山城地方)は強力なバックボーンの地域であり、さらに交通、情報の中心であるため、ここに「筒城宮」を置いたのは当然の事と思います。

少し時代がさがり、この息長氏の末裔の一人、東大寺の僧・良弁僧正が、この京田辺市の地に息長山普賢教法寺(現在の観音寺・国宝十一面観音立像を本尊とする)を開基されましたのも偶然ではないと考えられます。



菜の花畑から観音寺を望む



観音寺本堂

【観音寺】

真言宗智山派 智積院末寺。山号を息長山。寺号を観音寺。

別名大御堂。(江戸末から明治の初めに改宗)といひます。

- ・天武天皇(第四十代、在位672～686年)の勅願により、法相宗の義淵僧正が白鳳(天武)二年(673)に勸心山親山寺を開基。
- ・ついで、聖武天皇(第四十五代、在位724～749年)の勅願により、義淵僧正の弟子で東大寺初代別当の良弁僧正が、天平十六年(744年)に伽藍を増築し法相、華嚴、三論の三宗を兼ねた息長山普賢教法寺と名を改め、奈良のお水取りを始めた弟子である実忠和尚を第一世とし、今に伝わる国宝十一面観音像はこのときのものです。
- ・室町時代の古図によると、諸堂は本尊十一面観音を祀る大御堂、小御堂をはじめ大講堂、釈迦堂、五重塔や南大門、仁王門、東大門、西大門等十三を数え、また、僧坊は二十余りもある巨大寺院であったという。世の人々、この寺の盛んなありさまから筒城の大寺(筒城寺)と称しました。(東の大寺は東大寺で西の大寺は西大寺)
- ・延暦十三年(794年平安遷都年)に始まるたびたびの火災にも、当寺が興福寺の当院であった為、その都度藤原氏の援助により旧に再建されました。
- ・しかし、中世戦国時代になり、公家勢力が衰えたことにより、永享九年(1437)室町時代(上記古図から九年後)、全山が消滅した火災には地侍の諸国勧進により大御堂と小御堂しか再建出来ませんでした。

現在の大御堂は江戸時代の大御堂を昭和28年に建て直したものです。

国宝十一面観音像

＊天平仏(奈良時代中期)を代表する仏像で、昭和 28 年
国宝指定。

＊天平 16 年(744 年)、良弁僧正開基時の仏像です。

＊像高：172.7cm、重量：66kg、一木式木心乾漆造、
漆箔仕上げです。

＊国宝十一面観音像は全国で 7 体のみで、奈良の聖林寺、
法華寺、室生寺、京都の観音寺、六波羅蜜寺、滋賀の
向源寺、大坂の道明寺です

聖林寺の十一面観音像が一番古く、観音寺は二番目です。

また作成は聖林寺と同じ造東大寺司で、32 年後に作られました。 国宝十一面観音立像



木心乾漆造：荒彫りした仏像(心木)の上に^{こくそうし}木屎漆を盛って^{へら}竹篦等で塑形する。指先や耳朶、天衣等体
ら離れた部分は鉄線又は銅線を心として同じく木屎漆を盛って塑形する。

木屎漆：漆に小麦粉を混ぜた麦漆に檜の木粉や麻等植物繊維を加え練ったもの。

天平時代の木屎漆は漆に線香の材料となるタブの木の粉末や砥粉、それに伽羅、百壇等の
香木を混ぜたものであったと思われる。

漆箔仕上げ：下地の上に漆を塗り、金箔を押した表面仕上げのこと。

2)筒城宮の候補地について

筒城宮は京田辺市の何処にどこにあったのか？

この疑問について、先人の考古学者、歴史学者が数々の調査を行いました、確たる場所は
まだ特定されておられません。過去の歴史的文献や、伝承として伝えられてきた候補地に加え
て、最近の発掘調査によって、いくつかの候補地が挙がってきていますが、今ひとつ決め手
といえる証拠が見つかっていないのが現状です。その候補地を挙げると

① 都谷付近とする説、

同志社大学校内にある筒城宮跡の石碑は、
歴史的な文献や伝承、そして何よりも「都谷」
という有力な地名に基づいて設置されたもので、
この付近のどこかに筒城宮跡があったことを象
徴する意味で、候補の 1 つに上がっています。

② 普賢寺付近とする説、

都谷に沿って普賢寺川が流れ、当時、この川
は現在より水量が豊かで、水運を利用した百済

系の渡来人によって養蚕が発達していた。その豊かな経済的基盤に基づいて宮を置いた



都谷付近を望む

③ 三山木・越前付近とする説、

①都谷

②普賢寺

③三山木越前

④飯岡

⑤田辺高校北東一帯

⑦田辺警察付近

⑥薪堂ノ後

④ 飯岡丘陵地とする説、

従って、丘の上から、木津川を見張るための絶好の場所であり、普賢寺川も飯岡の北西角をかすめるように流れており、水運を利用する上からも好位置にあります。

弥生時代の高地性集落の跡も発見されています。

また、伝承の域を出ないものとされていますが、継体天皇にかかわる皇子や孫に当たる人が比定されており、4世紀から6世紀の多くの古墳が存在することも、注目に値します。梔子王の古墳といわれている

れている「薬師山古墳、」朱大王の古墳とい

桜井王古墳

われている「弥陀山古墳」、飯上殖葉王の古墳といわれている「岡車塚古墳」などがあります。

これらのことから、飯岡の丘陵地も筒城宮跡の有力候補地であると言われていますが、確証となる遺跡は発見されていません。

⑤ 田辺高校北東付近とする説、

ここは木津川沿いに潟（江）があったことから、木津川の港のひとつと考えられ、水運を考えると好位置であります。最近の天井川の工事で、地下から6世紀前半の多数の須恵器が出土しています。

⑥ 薪・堂の後付近とする説、

最近注目されるのは、薪の堂ノ後周辺です。

この付近の田んぼの中から、6世紀初頭の4つの須恵器が農作業中に発見されました。しかも、6世紀初めの土器は薪以外からは発掘されていないのが現状です。

地形的には、甘南備山と木津川とが一番接近した位置であること、大住隼人が九州から移住してきた大住地区にも近いことに注目したいと思います。

またこの付近の西側の丘陵地には、多くの古墳が見つかっており、特に「堀切7号古墳」は6世紀前半の古墳といわれ、6世紀の武人埴輪や、尾張式円塔埴輪、尾張地方でしか見られない馬形埴輪などが発掘されています。これら尾張地方の埴輪は、継体天皇が尾張連草香の女・目子媛を娶った証ではないかといわれています。ちなみに目子媛は27代安閑天皇、28代宣化天皇を生みました。



堀切古墳・武人埴輪



堀切古墳・馬形埴輪



堀切古墳・円塔埴輪

⑦ 田辺警察署付近とする説、等々があります。

男大迹王の諱名「継体天皇」

応神、仁徳から続いた天皇の血筋が、25代武烈天皇で途絶え、血筋の遠い男大迹王が跡を受けました。そのため継体天皇は、武烈天皇の3人姉妹の一人・手白香皇女を皇后に迎え、欽明天皇を産みました。又、他の妃から生まれた安閑天皇、宣化天皇の皇后に武烈天皇の姉妹2人・春日山田皇女、橘仲皇女を迎えました。このように応神仁徳の血筋を次の天皇に受け継がせた天皇であるという事で「継体」という諱名がつけられたと考えます。

主な参考文献

新潮日本古典集成 古事記	著者・西宮一民	新潮社
よくわかる古事記 神々の時代の日本の姿	著者・島崎 晋	新人物往来社
古事記と日本書紀	監修・多田 元	西東社
歴代天皇事典	監修・高森明勅	PHP 文庫
新日本史 古代編	発行者・星野泰也	数研出版株式会社
京田辺大百科 歴史風物編	発行 京田辺観光協会	株式会社日商社
古代天皇 実年の解明	著者・砂川恵伸	新泉社
歴史書「古事記」全訳	著者・武光 誠	株式会社東京堂
地理と写真から見える古事記・日本書紀	著者・山本 明	株式会社西東社

発行 京田辺観光協会

製作 京田辺市観光ボランティアガイド協会

古事記編纂 1300 年記念事業委員会

編集責任者：藤野隆司、

編集委員：大内友子 神山友代、園上雅晴、弓仲達雄、

柳生静慶、竹村良子、有竹真記恵、

発行日 平成 27 年 4 月 1 日 第 1 版



編集委員の方々

9 大山津見神

足名稚
手名稚
櫛名田比売
須佐之男命 (出雲国平定)
大年神 * 5
10 宇迦之御靈神
神大市比売
石奈賀比売

八俣の大蛇伝説、草なぎの剣、
須賀の宮をつくり、八雲神詠歌
をつくる。

日河比売
布波能母遲
久奴洲奴神

深淵之水夜礼花神
天之都度間知泥神

布事耳神
添美豆奴神

天之冬衣神
刺国若比売

大国主神の神話
・因幡の白兔伝説・八十神
の迫害、少名毘古那神の協力
による国造り。

大国主命

下段へ

須佐之男命の娘
須勢理比売

福羽国の女
八上比売

高志国の女
沼河比売

多岐理比売 命 (宗像三女神)
阿遲高日子根神
高比売 命

n 23 穴国命

大穴牟遲神、
八千矛神、

葦原色許男神
宇都志国玉神

大黒様

天若日子

根の国での試練
須佐之男命から蛇、百
足、蜂、鳴鶴等の試練
を克服し、出雲の国を
作る。

鳥取神

鳥鳴海神

25 事代主神

神屋櫛比売命

天孫降臨の際、国譲り
を受諾し、青紫垣に隠
遁する。

建御雷神に抵抗し諏訪湖に逃
亡するが降伏する。御名方は
南方族の祖で製鉄神である。

出雲国の神で奈
良の高島神社の
祭神。葛城山麓
の豪族鴨氏が出
雲から大和へで
て奉納神とす。

k 誓約により

十拳劔から

17 多岐理比売命
18 市寸嶋比売命
19 多岐理比売命

福岡宗像神社の祭神。
玄界灘の沖ノ島、大島、田島の
宮に祀られ、特に沖島は「海の
正倉院」と呼ばれている。

万幡豊秋津師比売 (高木神の娘)

誓約により

八尺の勾玉から
右の美豆良の珠
御簪の珠から
左手の珠から
右手の珠から

20 天照大御神
21 天之玉命
22 天照日尊命
活津日子根 命
熊野久須比 命

l 天岩戸事件 一関与した神々
29 天宇受売命：神懸りの舞。沙女氏の祖。降臨の際、30 猿田彦との逸話を残す。
31 天照大御神：祝詞をあげる。中臣氏の祖。32 太刀玉命：勾玉をもって祈る。
33 伊勢許理度売命：鏡造りの祖 34 思金神：天孫降臨の際、鏡を持つ。
35 天手力男神：相撲の神、 36 玉祖命：八尺の勾玉を作る神

須佐之男尊から
大国主命へ受け
継がれる。

須佐之男尊
高天の原から追放される。

出雲国平定へ

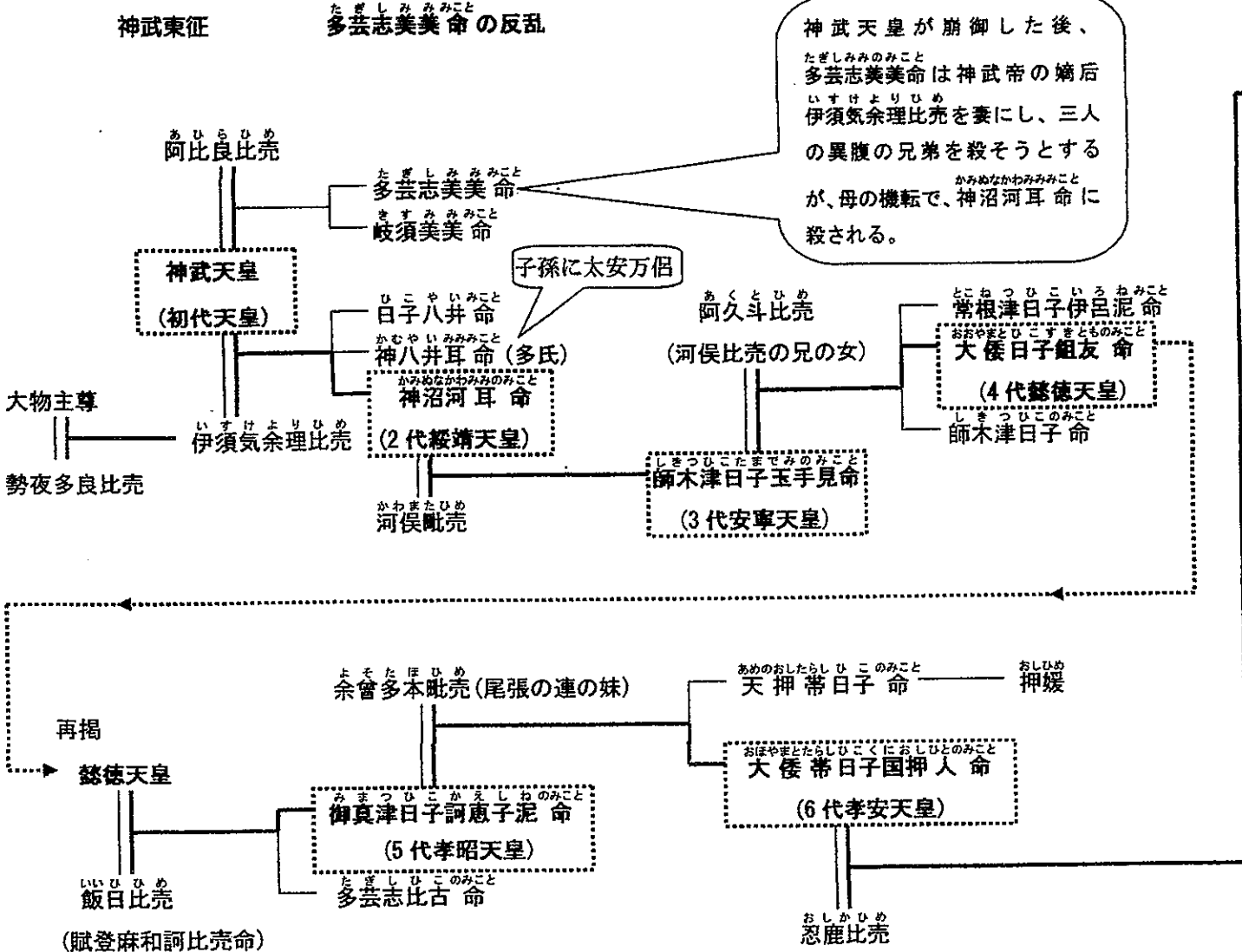
m
須佐之男尊は食物を大気都比売神に乞うと、
鼻、口、尻から色々の食べ物が出てきたと聞
いた須佐之男尊は、穢れるとして、この神を
切ってしまった。そしてこの大気都比売神の
頭から蚕、目から稲穂、鼻から小豆、耳か
ら栗、尻から大豆、陰から麦が生った。
これは神産巢日神の技であって、これらの
穀物を作らせ、それぞれ種とした。

五穀の起源

k しかし須佐之男尊は、この命に従わず、母の国
根の磐洲国 (黄泉国) に行きたいと言い、天照大御神
に逆らう。天照大御神は高天原への反乱と思い、兵を
布陣したが、須佐之男尊は「邪信なき心」を訴え、
是が認められて、両者ともにその証として『誓約』に
より神々をつくる。
l 須佐之男尊は三神の女神を作ることにより、「誓約の結果」は私が勝ったと不貞の働きを行い、天照大御神は
「天の岩屋戸」に隠れてしまう。
m 多くの神々の力で天岩戸から出られた天照大御神は
八百万の神と相談し、高天の原から追放した。

n 出雲国の明け渡し要求

* 天照大御神は大国主命が建国した豊葦原国を子の
忍穗耳命が治める国だとして使者を送る。
第一使者：21 天之玉命、大国主に寝返り 3 年もかえらず。
第二の使者：天之若日子、大国主の娘と結婚し、8 年間も連
絡が途絶える。
第三の使者：雉の鳴女、天之若日子を説得するが、雉は射殺
される。高御産巢日神が怒り、おなじ矢で若日子を殺す。
第 4 の使者：*12 建御雷神、伊耶佐の浜に着き、十握劔を逆
さに突き差しその上に座って大国主に問う。息子の 21 事代主神
は承諾するが、26 建御名方神が反抗するが建御雷命に破れ、
建国の条件を出して、国を渡す。



初代神武天皇

宮：畝傍橿原

御陵：畝傍山北方白橋の尾

・神武天皇の即位は紀元前 660 年 辛酉
1 月 1 日である。辛酉の年には大きな
改革が起こるとされている。

(例) 601 年(推古 9 年)聖徳太子誕生
神武東征

- ①日向出発
- ②豊国の宇佐に到着。足一騰の宮を作る。
- ③笠紫の岡田の宮に一年滞在。
(福岡県遠賀郡芦屋町の河口付近)

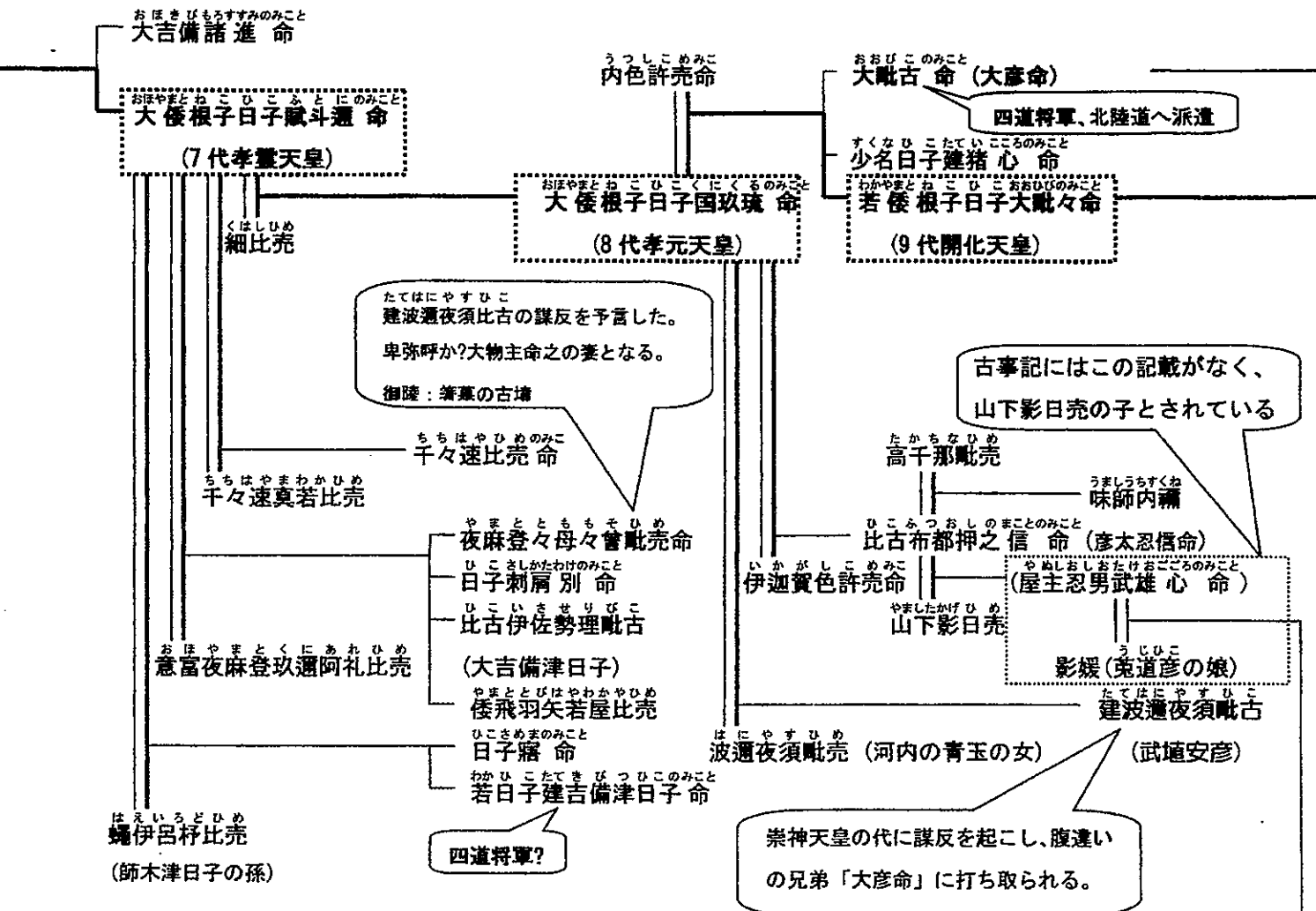
- ④安芸の国、多祁理の宮に七年滞在。(安芸郡府中町?)
- ⑤吉備の高嶋の宮に八年滞在。(岡山県宮浦?)
亀の背に乗った槁根津日子(倭の国の造等の祖)を家来にする。
- ⑥白肩の津(大阪府東大阪市)で宿泊。
富美能那賀須泥毘古(長髓彦)の襲撃を受け、兄の五瀬命負傷。

- 東を向いて(太陽に向かって)戦いをし負けたので南へ迂回する。
- ⑦紀伊の国熊野に到着。熊の毒氣にあい、全滅寸前となる。
高倉下は御建雷神から預かった刀(布都の御霊)を伊波礼里古命
に渡すと、荒ぶる神は全て切り倒された。
- 天より水先案内として、八咫鳥を遣わす。
- ⑧吉野川河尻に到着。
国つ神賢持之子、井氷鹿、石押分之子等の味方を得て、宇陀
(奈良県宇陀郡葛田町)に至る。
- ⑨宇陀の兄宇迦斯が迎え討とうとする時、弟宇迦斯に助けら
る。宇沙都比古、宇沙都比売の接待を受ける
- ⑩忍坂の大室に到着し、土蜘蛛八十建を討つ。
- ⑪那賀須泥毘古、兄師木、弟師木を打つ。

- ⑫邇芸速日命が伊波礼里古に帰順。伊波礼里古の
東征は成功し、畝傍の橿原宮で即位し、
神武天皇となる

卑弥呼か?

武埴安彦の反逆「加波羅」伝説①



2代額満天皇

宮：葛城高岡

御陵：衝田の丘(橿原市四条町)

多芸志美美命の反乱

・腹違いの兄に殺される処、先手を
打って弓矢で射殺す。

・実兄の神八井耳命は天皇を継ぐべき
ところ、武勇に優れた神沼河耳命に
皇位を譲る。

3代安寧天皇

宮：片塩の浮穴(大和高田市)

御陵：畝傍山南御陰井上陵(橿原市吉田町)

4代懿德天皇

宮：輕の境岡(橿原市大輕町)

御陵：畝傍山 南真名子谷

・名の「粗」という字から農業に力を
入れた天皇であったか。

5代孝昭天皇

宮：葛城の掖上(奈良県御所市)

御陵：液上の博多山(御所市三室)

6代孝安天皇

宮：葛城室の秋津島(御所市室宮山)

御陵：玉手の岡(御所市玉出)

7代孝靈天皇

宮：墨田の蘆戸宮(田原元町)

御陵：片丘馬坂陵(北葛城郡王寺町)

・三輪山伝説

8代孝元天皇

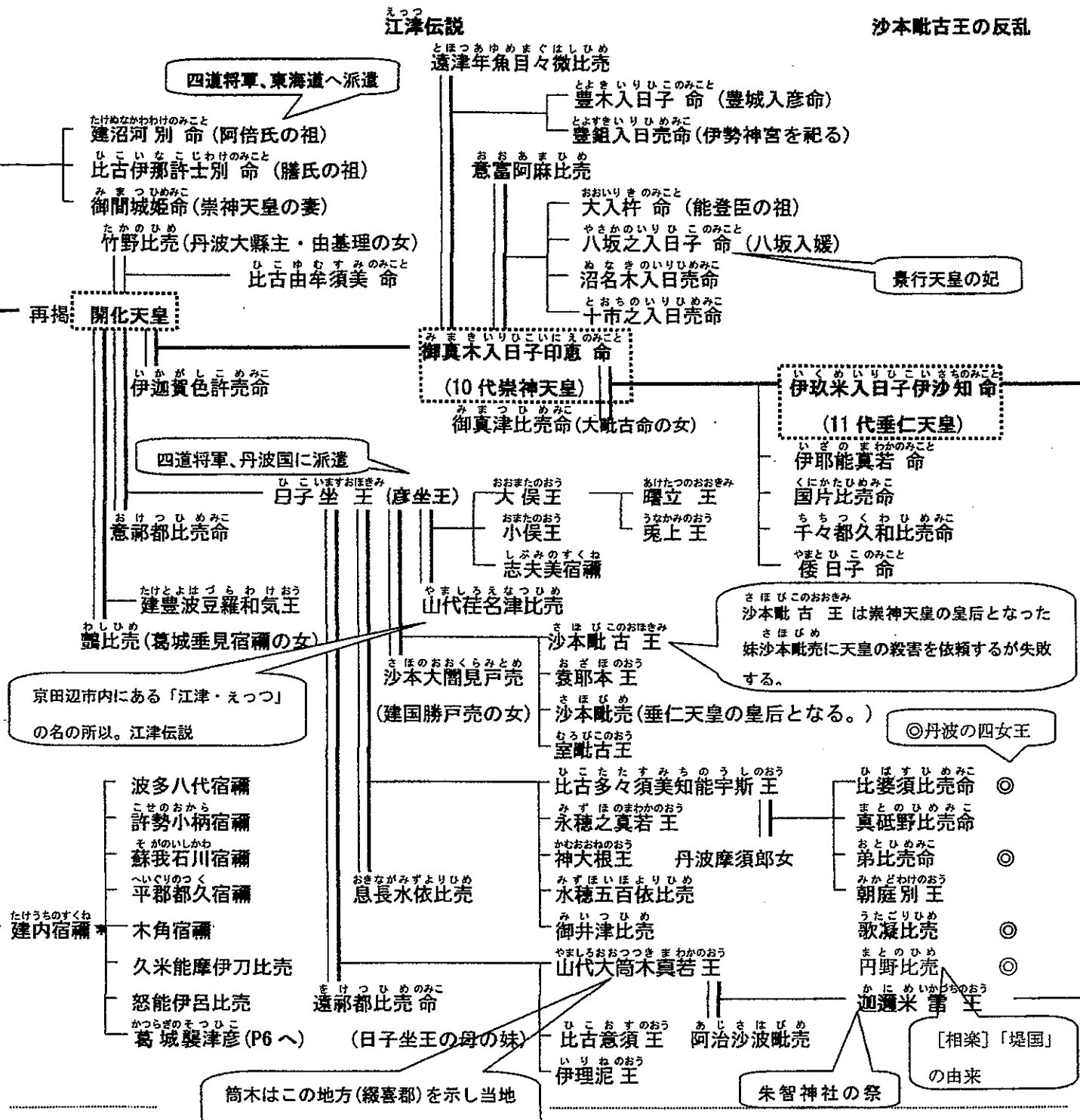
宮：輕の境原宮(橿原市)

御陵：劔池の中の丘の上・嶋上陵(橿原市)

9代開化天皇

宮：春日の率川宮(奈良市)

御陵：伊耶河の坂の上



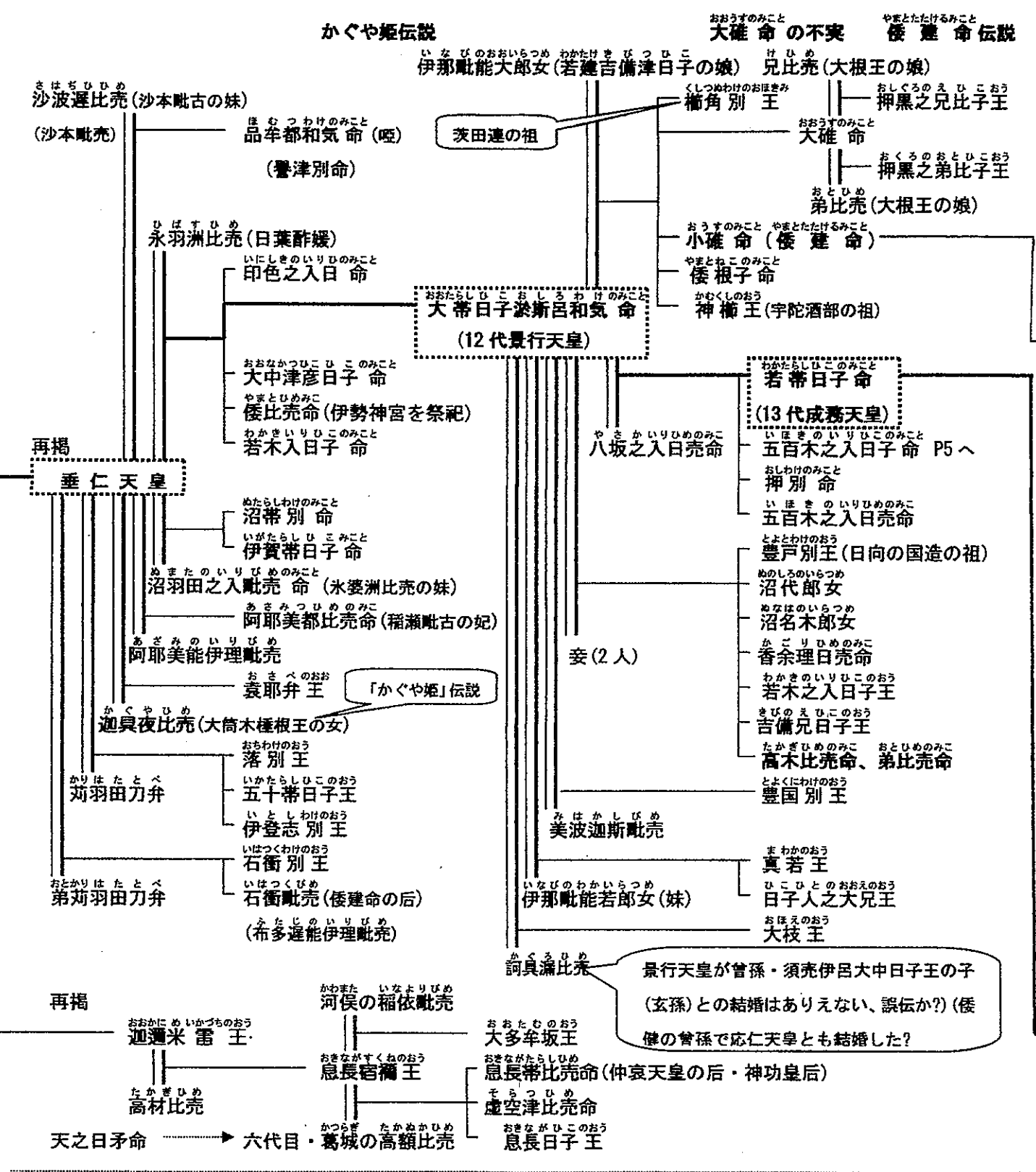
10代崇神天皇
宮:師木の水垣(奈良県桜井市)
御陵:山の辺の道、勾の岡(天理市柳本町)

- ・三輪山の神を祀る
- ・伊勢神宮の起源
- ・武埴安彦の謀反

*武内宿禰
大和朝廷の初期・第12代景行天皇～16代仁徳天皇
まで五代の天皇に仕えた伝説的な長寿人物です。

11代垂仁天皇
宮:纏向の珠城宮
御陵:菅原の御立野(奈良県桜井市)

- ・品牟都和氣命は「唾」を治すため、曙立の王、菟上
の王と共に出雲へいく。
- ・出雲大社の修繕
- ・多遲摩理、橘を求め常世の国に派遣。菓子の祖
- ・相模の起源
- ・殉死の廃止、人馬の埴輪の起源



12代景行天皇
宮:纏向の日代の宮
御陵:山の辺の道の道の上

- ・倭の屯家を制定
- ・九州の征伐
- ・倭健命の熊襲征伐

13代成務天皇
宮:大和郡大和郡
御陵:大和郡大和郡

- ・小碓命(倭建命)は大碓命の不実を知り、手足を
もぎ取り、殺してしまう。
- ・十二代景行天皇は小碓命(倭建命)の荒い気性を見
て熊襲の討伐を命じる。
- ・倭健命の出雲征伐、東国征伐、尾張、相模の平定。

神功皇后の新羅親征

大山守命の反逆

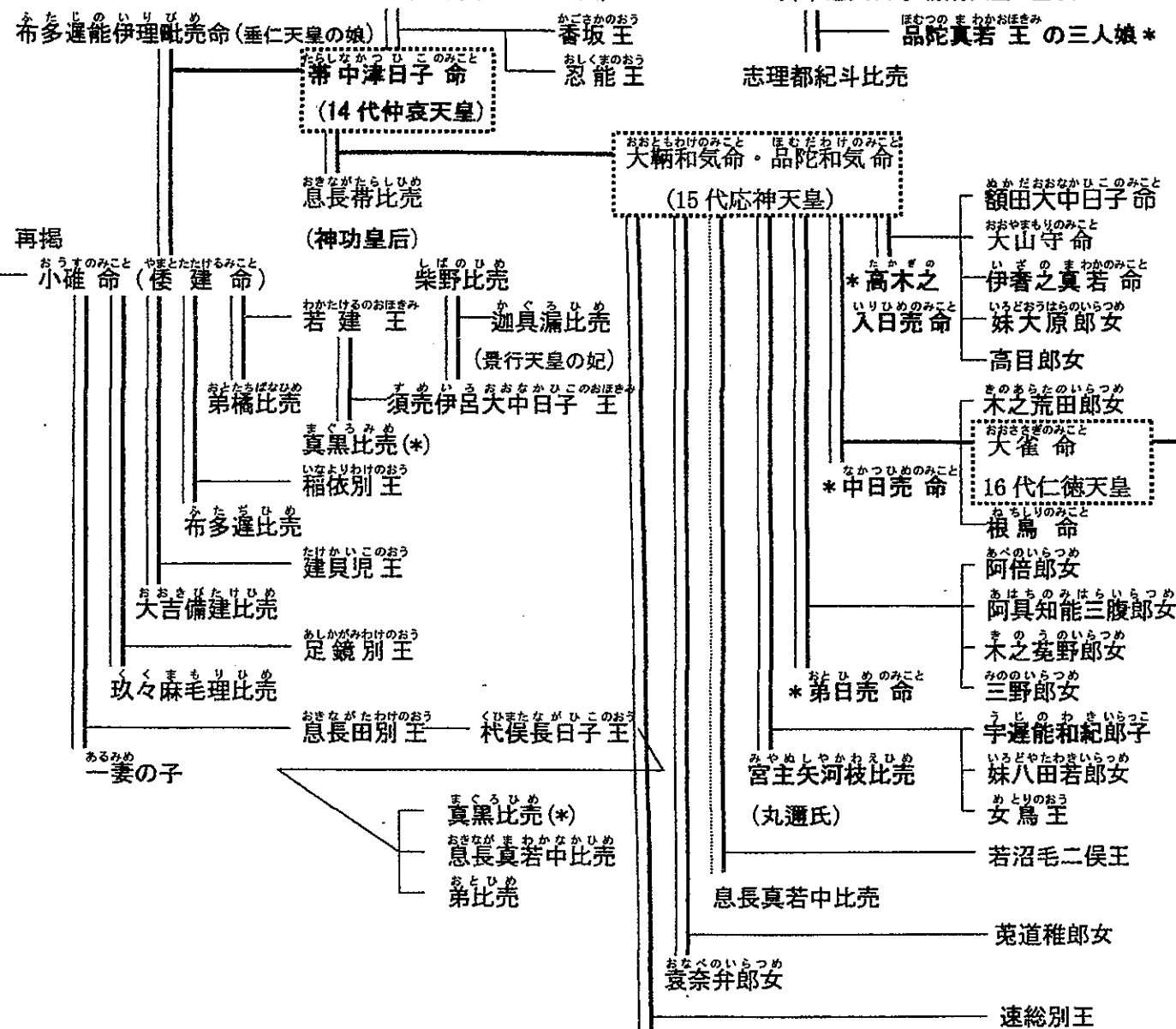
香坂王忍能王の反逆

大中津比売(大江王の女)

五百木之入日子(景行天皇の皇子)

品陀真若王の三人娘*

志理都紀斗比売



再掲

13代成務天皇

和詞奴氣王

建内宿禰を大臣として国造りを制した。

13代成務天皇

宮: 志賀の高穴穂(滋賀県大津市)
御陵: 沙紀の多他那美(奈良市山陵町)

14代仲哀天皇

宮: 穴門の豊浦宮
御陵: 河内の恵賀の長江
・神功皇后
熊襲征伐、新羅遠征

15代応神天皇

宮: 大和の輕島の明宮
御陵: 川内の恵賀の裳伏岡
・三皇子に任務の分担
・応神天皇の親征
・須々許理の酒
・大山守命の反逆
・宇遲能紀郎子の死

16代仁徳天皇

宮: 難波の高津の宮
御陵: 毛受の耳原
・聖の御代といわれた。(国見の歌)
・磐之媛とのエピソード
・磐之媛訪問のため綴喜に行幸
・女鳥王と速総別王の反乱

17代履中天皇

宮: 伊波礼の若桜宮
御陵: 毛受
・墨江中王の反逆
・水齒別命の智略

18代反正天皇

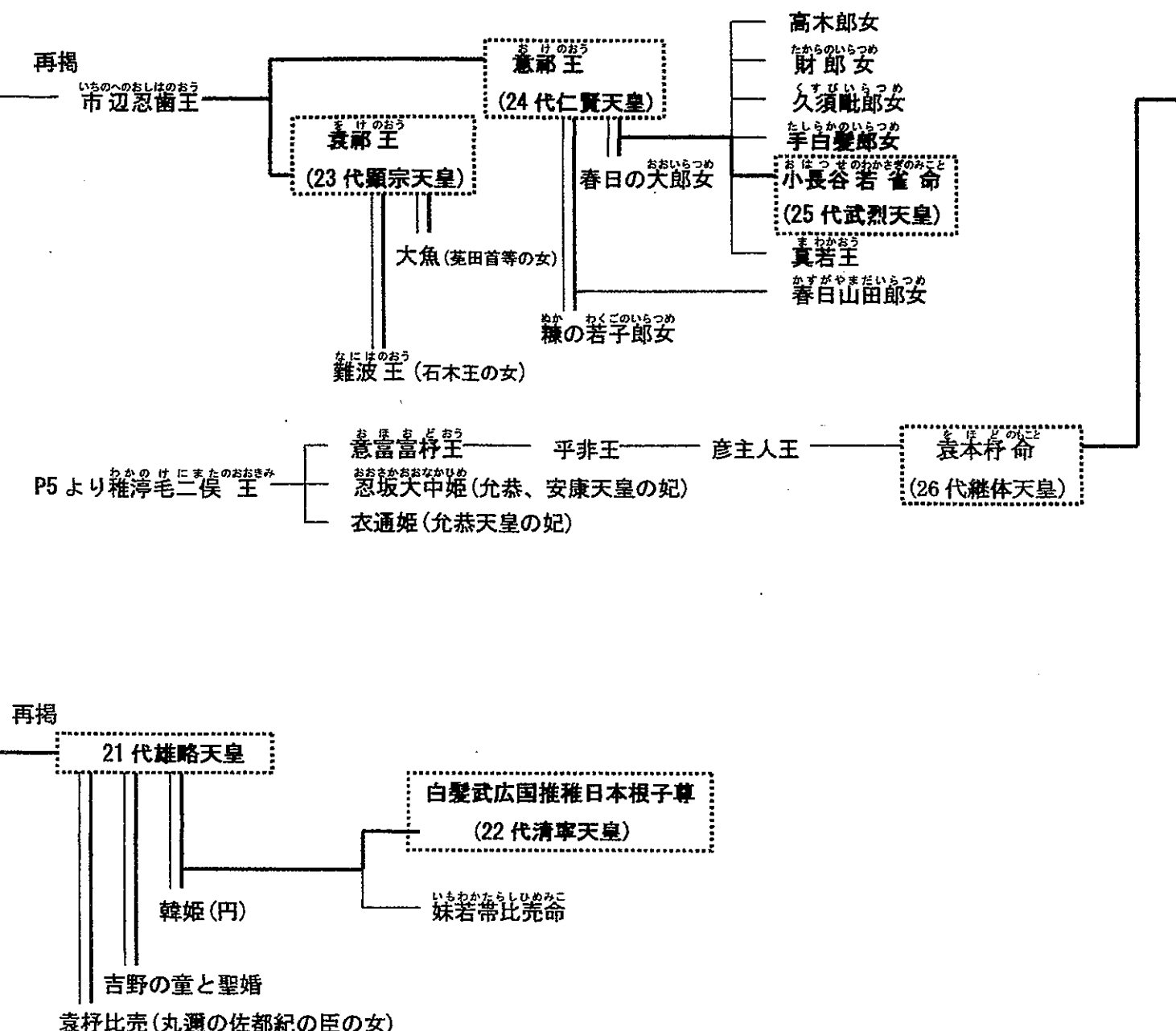
宮: 多治比の柴垣宮
御陵: 毛受野

19代允恭天皇

宮: 遠つ飛鳥宮
御陵: 恵賀の長枝(河内)
・氏姓の制定
・木梨輕皇子の姦通事件

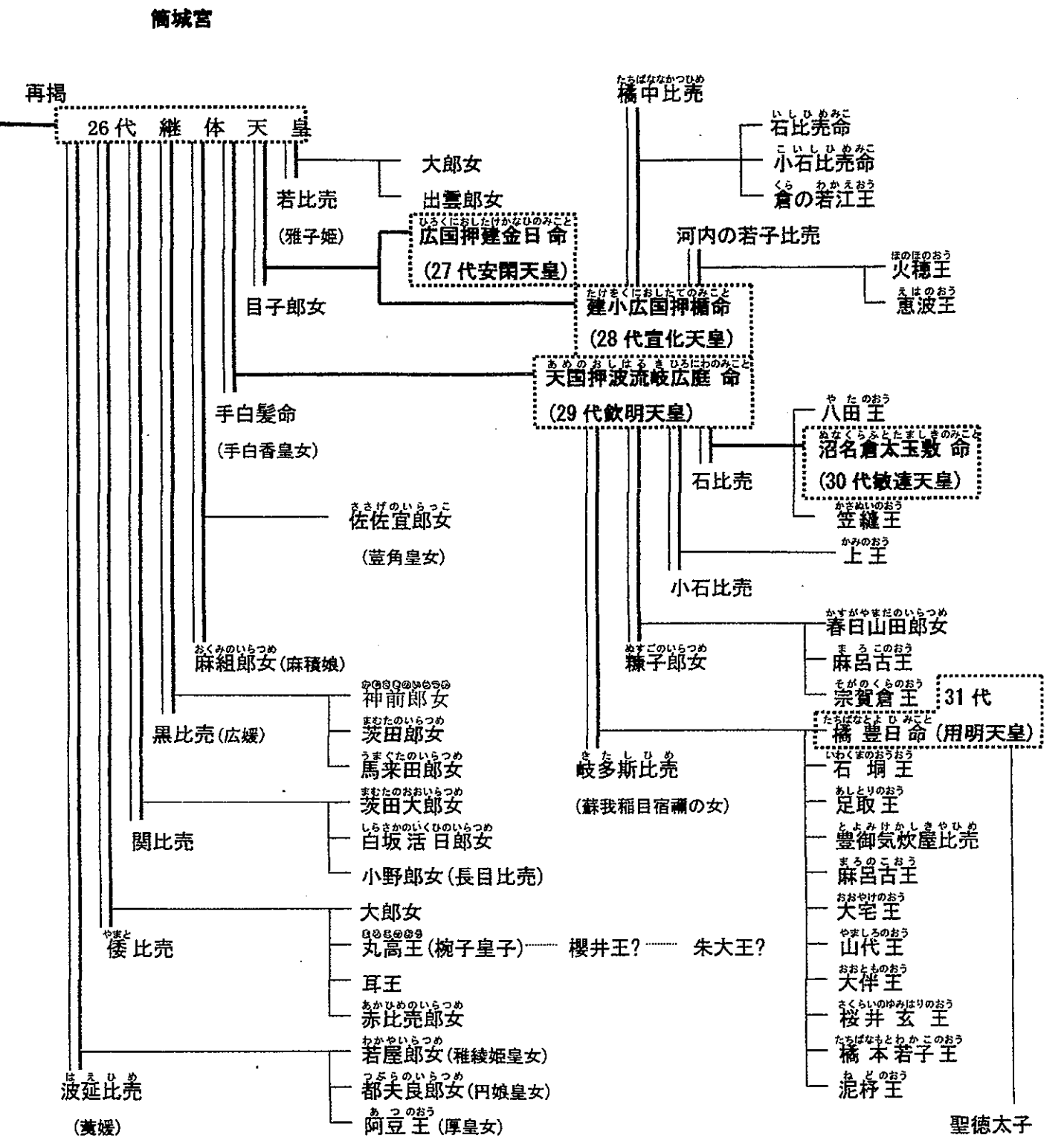
20代安閑天皇

宮: 石上の穴穂宮(奈良県天理市)
御陵: 菅原の伏見の岡
・眉輪王の変
・市辺押齒王の殺害



21 雄略天皇	23 賢宗天皇	25 武烈天皇
宮:長谷朝倉の宮(奈良県桜井市)	宮:近つ飛鳥の宮	宮:長谷の列木の宮
御陵:河内の多治比の高鷲	御陵:片岡の石坪(北葛城郡)	御陵:片岡の石坪
一言主大神		

22 清寧天皇	24 仁賢天皇
宮:伊波礼の壘葉	宮:石上の広高の宮(奈良県天理市)
御陵:蚊屋野の東の山	御陵:
二皇子の発見	志咩臣を誅剗



26 繼體天皇	27 安閑天皇	30 敏達天皇
宮:伊波礼玉穗の宮	宮:勾の金箸の宮(奈良県柏原市)	宮:他田の宮
御陵:三嶋の藍の陵	御陵:河内の古市の高屋	御陵:河内の科長
筑紫石井の乱平定		
樟葉の宮、筒城の宮、乙訓の宮		

28 宣化天皇	29 欽明天皇
宮:檜堀の廬入野宮(奈良県高市郡)	宮:師木島の大宮